

昭和六年度事業報告

鹿兒島縣水產試驗場



昭和六年度水產試驗場事業報告

目 次

漁撈部	
鰹漁業調査試験	一
趣旨、調査方法、經過及成績、鰹漁場調査試驗成績表、比島及八重山南新漁區調査概要、比北八重山漁區出漁民間船成績表、一般海況と漁況	
鮪延繩漁業試験	
趣旨、經過及成績、一般漁況、漁業表、漁場に於ける水流比重表、漁場價值	一六
旗魚延繩漁業試験	
趣旨、經過成績、朝鮮東部の漁況と海況、濟州島近海の漁況と海況、漁業表	二三
瀨魚延繩漁業試験	
趣旨、經過及成績、試驗成績、漁場別漁獲高、漁業表	三三
定置漁業漁場調査	
趣旨、調查漁場及調查月日、漁場圖	四五
製造部	
鰹節製造試驗及傳習	
趣旨、經過及成績	四七
南洋產鰹節製造豫察試驗	
	四七

經過、分析表

鰹鹽辛製造試驗

五〇

鰯鰻製造試驗

五一

趣旨、經過及成績、鰯櫻乾、鰻櫻乾、鰯丸乾、鰻真砂乾、鰯香味乾

養殖部

五二

淺草海苔養殖試驗

五三

海蘿增殖試驗

五四

とこぶし移植繁殖試驗

四五

趣旨、經過及成績

調查部

五六

海洋觀測

五六

開聞岬屋久島間橫斷觀測、水溫、比重

屋久島奄美大島間橫斷觀測、水溫、比重

鹿兒島灣內定點觀測、水溫、比重

橫斷觀測表、橫斷觀測圖

正

誤

古

頁

行

詛

金

中魚呼日蟹蟹

食夕生食之夕食

合也入會也入

直疏口之直繩

蘿蘿魚魚

願願蟹蟹

鰐鰐鯉魚

發發脾脾

脾脾

魚魚天

三 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

正 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

誤 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

古 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

正 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

誤 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

古 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

正 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

誤 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

古 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

正 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

誤 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

古 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

正 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

誤 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

古 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

正 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

誤 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

古 二 一 一 二 三 五 八 九 一 二 三 五 七 九

鹿兒島縣水產試驗場昭和六年度事業報告

漁撈部

鰹漁業調査試験

調査方法
趣旨 従來より繼承し縣下重要漁業の一たる鰹漁業に關し春漁期中其の海況と漁況との關係を調査すると共に新漁場と目す可き海區に出漁し其狀況を縣下當業者に速報し且つ適宜場員をして民間船に乗込ましめ實地指導の任に當らしめ斯業の開發助長を爲さんとす。

試験船 照洋丸 五十五屯 七十五馬力
乗組員 主任一名 船長以下二十八名
期間 自昭和六年三月五日
至昭和六年七月四日

調查海區 大島沖繩近海及臺灣ヒリツビン近海

漁獲法 竿釣

漁獲物處理 氷藏に依り鮮魚のまゝ根據地に運搬賣却す

経過及成績
第一航海 三月五日櫻島にて餌料を積込み六日オガミ曾根より西南方を見るも魚群に合せず適々荒天となりたるを以て寶島に避泊するに民問船の集るもの二十數隻に及ぶも何れも好漁をなすものなし八日寶島の西微南八十浬にて中鰹百六十尾を得たり水溫二十一度八内外を示し此附近一帶にのみ多數鳥群を見る。九、十兩日寶島西部四十乃至六十浬附近にて一帶に二十一度四内外の高水帶ありて鳥付魚多きも何れも千百九十一圓を擧げたり毎航海次の如し。

第一航海 三月五日開始し七月四日迄百二十二日間に比島方面調査を含み八航海をなし總漁獲高鰹鮪五千七百三十尾價格金四

小鰯群を逐ひ餌付き良好ならざりしも兩回に二大鰯百尾中鰯二百六拾尾を得枕崎に寄港し金七百四十七圓を得たり。

今回の海況より見るに上島各曾根に漁船多數出動するも何れも不漁にて横當西部五十浬附近一帶に二二度五内外の高水帶ありて之の間魚群を比較的多く見受けられたり。

第二航海

三月十八日海濱にて餌料積込み十九日七島西部曾根を素漁南下し寶島より西方六十浬附近を経て横當島の北々西三十浬に出で中鰯十四尾を釣りたるも他に魚群を見ず。

二十日臥蛇西曾根にて鮪混り小鰯の小漁をなし二十一日寶島西方より横當島方面を見るに魚無く二十二日横當島の西北西三十浬附近にて中鰯二百八十尾を釣り更に翌日全所附近にて中鰯七十尾を得て二十四日枕崎に寄港金五百三十一圓を得たり。

水温は前航海に比し全般的に上昇し潮流北東に速く時速三浬に及び水色良好にして透明度二十六、七米を示せり。

横當島西方面に於けるものは中鰯鮮なるも魚群稀にして薄く臥蛇附近のものは小鰯群相當濃厚なるも餌付き悪く民間船は主として北島島より七島方面に採集するも漁況極めて振はず只大島郡内船は比較的好漁をするものあり。

第三航海

三月二十八日海濱にて餌料を積み二十九日尾久南曾根を過ぎ全南方十三浬附近にて小鰯群に合せたるも餌付不良にて僅に二十數尾を得たるに止り其後荒天の爲め四月一日迄寶島に避泊す民間船の集合するもの十八隻に及ぶも何れも好漁をなすものなし。

二月寶島及横當島の西部を索魚するに鳥群を認めず横當島西北西六十浬附近にて水温二十二度に低下せるを以て再び引き返し沖合高水温部を廻るも魚群を見ず四日横當島西二浬に來り四回流して大中鰯二百三拾七尾小二拾尾を得六日枕崎に歸港し金五百四拾六圓を得たり前航海より引続き北偏風強吹せるを以て水温は一度内外低下を示せる所ありて一帯に多少の低下を見二十二度五内外を示し魚群浮上少く一般に好漁なし。

第四航海

四月十四日櫻島にて餌料を積み七島各曾根を索魚南下するも魚群を見ず十七日大島新曾根にて小鰯二百七拾尾の小漁をなし十八日横當島西部沖合を見るに四十浬附近迄に魚群相當あるも餌付不良なりし處西微南五十五浬附近にて大鰯群を見八十尾を得翌日北島島方面迄南下し二回入鰯群に會ふも餌付せず二十一日再び横當島西微北五十浬附近に到り大鰯三百六拾二尾の好漁をなし二十三日枕崎に歸港し金壹千九拾六圓を得たり。

本航海に二は水温上昇し最高は横當島西五十浬附近の二十四度六にして前回出漁の際よりは各地點多くの魚群を見受けられ近海小鰯の漁獲を増し沖合大鰯の好漁を期待し得る模様あり。

第五航海 本縣を根據としての比島方面鰹漁業調査の目的を以て四月二十九日山川港發高雄寄港の後比島西部を經て五月十四日全東岸に出で二十二日多大の効果を齎し枕崎に歸港し直に本場員を民間船に乗り込ましめ他寮船二艘と相連絡出漁し好成績を擧げ此處に一新漁區を開拓し得たるも右經過は本章末尾に比島及八重山新漁場調査報告として一括記載する事とせり。

第六航海 五月二十七日天草横浦にて餌料を積み臥蛇西曾根オガミ曾根を見南下し二十九日北烏島漁勢曾根にて小鰹九百尾を得翌日全所にて二百尾を釣り沖永良部南鳥島方面を索魚するも魚群に會せず三十日氷補給の爲め名瀬に寄港し六月一日大島新曾根より小寶惡石平島を廻るも魚群に合せず三日枕崎に歸港し金四百六拾圓を得たり。

水溫の分布は惡石西部四十浬の處二十六度を示し他は一帶に二十五度内外にて徳ノ島沖永良部西部附近は低溫にして二十四度以下を示す所多く本期間小鰹の好漁をなすものは主として沖合及流木付にして曾根附近殊に七島方面甚だ不振を極む。

第七航海 六月六日天草牧ノ島にて餌料を積み臥蛇小寶島附近各曾根を見るも魚なく北烏島伊平屋を經て十日大丸曾根に到り大鰹群に會するも餌に付かず宮古曾根にて小鰹の小漁をなし宮古八重山方面に到るも魚群を見ず十三日與那國島南西一浬にて小鰹二百一拾五尾を得基隆に寄港し重油補給の後十六日赤尾嶼にて小鰹の小漁をなし歸途につき十九日歸枕金百拾七圓を得たり。

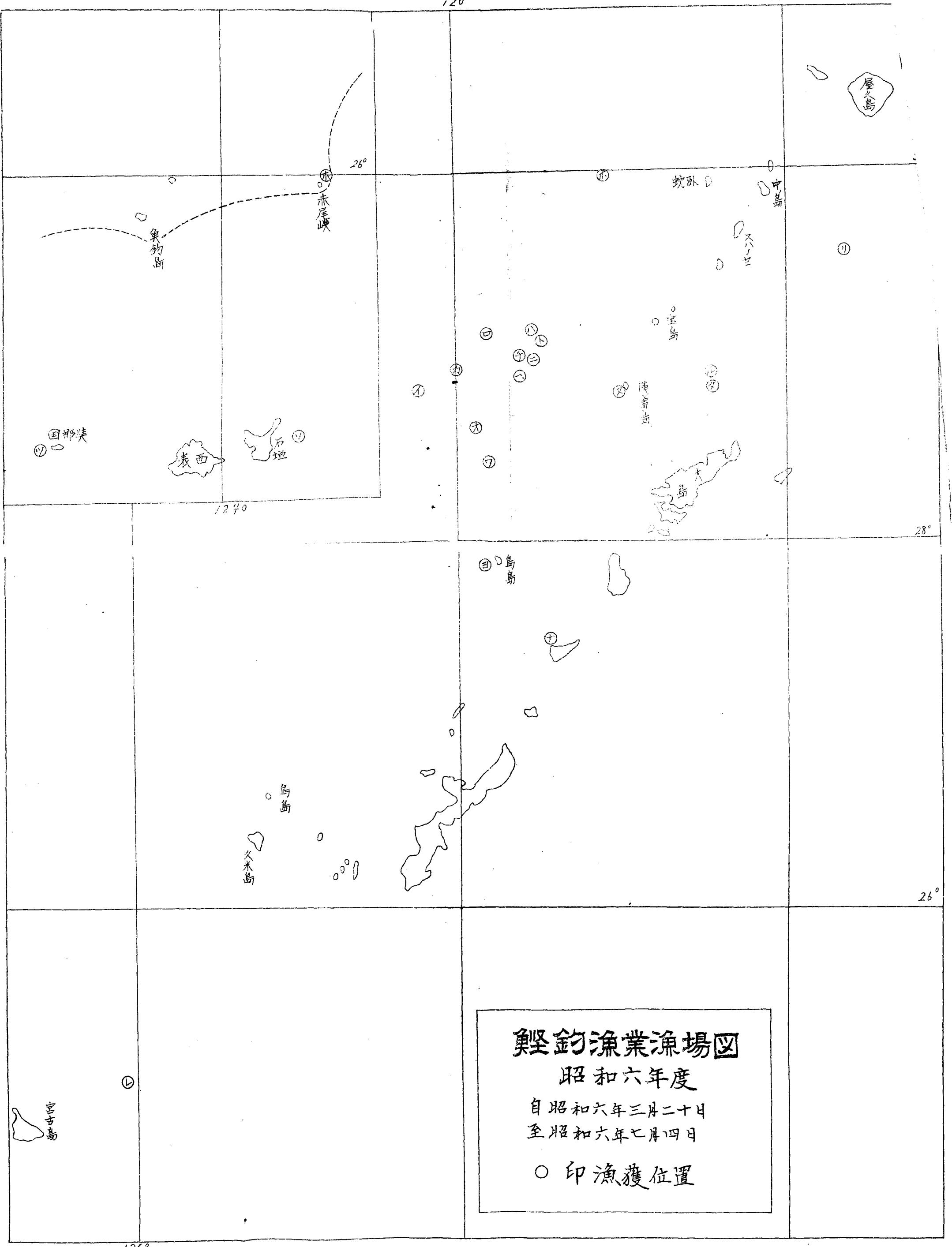
本期に於ては各所魚群少く大型船中關東方面並に比島方面に出漁するものありて從來漁場閑散を極む。

第八航海 六月二十二日海鴻にて餌料積込み二十四日沖永良部に於て小鰹の大群に會し千五百尾を釣獲那霸にて賣却金三百圓を得小量の残り餌を以て本船の比島歸途發見せる八重山南漁區の調査に向ひ三十日午前八時北緯二十二度東經百二十四度十四分附近にて大鰹群に會し僅に一桶の殘り餌を以て十斤廻り大鰹三十尾を釣り七月四日枕崎に歸港金八拾貳圓余を得本年鰹漁業試験を終れり。

宮古曾根以南は二十八度五内外にて大島附近二十六度以下を示し七島方面亦二十八度内外の高溫を示し一帶に漁獲なく殘留民間船中休業するもの多く夏枯期に入る。

鰈漁場調查試驗成績表

計	海航八第	海航七第	六月十日
	同 六月二十四日 三十日	同 同 十六日	十二日 十三日
	晴南西二	曇東一	曇北東一 晴南東二
	宮古島南々西(六〇浬) 沖永良部北岸	赤與國南岸 尾垣根	石垣曾根 宮古
	(ラ)(ナ)	(ネ)(ツ)(ソ)(レ)	
	午前 八時	正午 午後 五時 午	午前 午後 五時 九時
	一四	一一一	
	三五〇	三六〇	三七〇
	同 小中大	同 大小	同 同 小小
	一、三 二、一 三、〇	一、二 二、〇	二、〇 二、〇 二、〇
	四九、〇〇	三二、〇〇	一、一 〇、七 〇、九



比島及八重山新漁區調査概要

本縣大型船の進出に備る爲め比島及八重山南部沖合を調査せんとし四月三十日發五月二十二日相當の成績を得て枕崎に歸港直ちに本場員を實地指導者として枕崎町太洋丸に乗り込ましめ民間資船二隻と連絡出漁し好結果を納め得たるにより引續き出漁するものを出せり其概要次の如し。

第一航海（照洋丸に依る）

四月三十日由用港にて餌料を積み五月五日高雄にて氷、水等補給し六日發八日比島北西端に達し沿岸數浬を隔て南下するに當日二回鰹群を見丸、十兩目スカボーリ・リーフ方面に向ふに兩日大群に會し中鰹小鯖等百七十尾を得たり何れも撒餌を一たも使用せるものにて擬餌を以て釣獲せり而して其の食餌を檢するに柔魚底魚（エビ・シヤコ・ハゲ雜礁魚の兒）等を食するより見る時は附近方面に曾根の點在するものある可しと想像せらる。

十一日正午よりミンドロ海峡に入りたるに夕刻迄に七回魚群に會しスール海北部シブヤン海を經て十四日比島東岸に出で北上するも殆んど鳥群を認めず僅に數尾を曳繩にて得たるに止るも十六日比島北部デデカス、バブヤン、ボリンタン附近にて鳥付魚群極めて多く當日十二群を認め僅かに残り一たもの小量餌を以て撒餌とし擬餌を用ひ中小鱗鮎三百余尾を得たり以て餌付の良好なるは想像さる可し。

尙ボリンタン島より那覇に向ふ途中十七日正午頃即ち北緯二十二度東經百二十四度八分附近より北東に向ひ夕刻頃迄に六回の鰹大群を見更に十八日未明即ち北緯二十三度十五分東經百二十五度三十二分附近より北東に向ひ夕刻迄に數回の大群を見受け二十日那覇に寄港の上二十一日枕崎に歸港せり

本船に於ては積載能力小量なるを以て高雄に寄港水、氷等の補給をなすに當り餌料を網生巣中にて傷めたるにより比島方面の高水温に會し殆んど斃死したるを以て本調査にては單に餌付の良否及魚群の有無を知るに止りたるは遺憾とするも大型船にて直航せんが必ず成績を擧げ得らるゝものあらんと信じ依て全方面に出漁方を勧誘せる所枕崎船三隻の希望者を出せり。

第二航海（枕崎町太洋丸に依る）

照洋丸の調査の結果本場員を枕崎町太洋丸に乗り込ましめ他二隻の資船と連絡出漁を試み五月二十四日發六月四、五日相前後して歸港せる概要次の如し。

大洋丸は宮古比島間にて往航數回魚群に會し小量の餌料を以て大鰹七百を得尙撒餌をなす時には多獲の見込ありたるも比島出漁を目的とする爲め一路バブヤンに到るに偶々潮時悪しく魚群浮上せず且つ餌料斃死の憂ありしを以て直ちに引返し高雄に寄港増氷をなすに連日の大雨にて餌料殆んど斃死し歸途宮古南部にて中小鰹鮪三千二百尾を釣りたるも他二隻は全島に到り大群に會し一流し一隻は中鰹三千余尾を他是僅かに五百五十尾を得たるに過ぎざりしも之は前夜沖合に漂泊せる爲め活魚船内換水悪く爲めに餌料の斃死を見たる結果にして共に餌付きは極めて良好なりしものなり、而して各船水揚高金三千二百圓、金三千二百圓、金七百二十圓にして更に二隻は引續き之の方面に出漁せり。

今回の出漁の結果より見るに當時呂宋方面は溫水三十度に達し大洋丸にては大型垂口鱸及平子鱸は全部斃死し中型垂口のみは生存せしも他寮船にては夜間漂泊せし爲め大部分の餌料斃死し好漁をなし得ざりしも之れ不注意と且つ出漁當時餌料欠乏し適當なるものなく十數日間の馴れ過ぎたる瘦鱸を以て出漁せる爲め特に水温の上昇に會ひ斃死率多かりしものと推察さるものあるを以て全方面出漁に際しては中垂口の新餌を用ふる時は之の憂を除くを得可し因に夏期引續き出漁せしも餌料斃死せるもの少く遂に比島西岸迄出動するものを出せる事を以て附記す別圖の如く宮古比島間魚群多く特に北緯二十一度三十五分東經百二十四度附近より北東に向ひ六十浬線内外及宮古曾根南部より北緯二十三度四十分東經百二十六度附近迄魚群常に多く其漁獲鰹の食餌を検するに沖繩縣西部百尋線附近釣獲魚と同様なる底棲魚を食すると各回航行中殆ど同一地點にて魚群を見たる點より推す時は或は附近に魚礁の存在するものあらんかの感ありて今後の調査に待つ所多し。

比北・八重山南漁區出漁民間船成績表

船名	回數	期日	漁場	鰯尾數	金額	太洋丸	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	
						同	同	同	同	同	同	同	同	同	
第五蛭子丸	小計	第一回	三二一回	四三四回	五五〇尾	六五	月二十四日	六六	月二十九日	六七	月三十日	六八	月二十五日	六九	月二十六日
平均一航海漁獲高	小計	至自九九月月十九日	至自九八月月二十九日	至自六五月月二十八日	至自六五月月二十三日	至自七七月日	至自七七月日	至自六六月月二十七日							
兩者比較增	平均一航海漁獲高	八重山南漁區	八重山北漁區	八重山北漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區	八重山南漁區
同期一般漁船一航海平均漁獲高	平均一航海漁獲高	三、三三三尾	五、三一四尾	一、九八一尾	一、四三五圓	一、一九〇圓	二、六二五圓	七、二七五圓	二、八八三圓	三、六七三圓	一、八、〇五〇尾	九、五〇〇尾	八、〇〇〇尾	五、五〇尾	一九、一五〇尾
兩者比較增	同期一般漁船一航海平均漁獲高	三、二〇〇圓	三、一〇〇圓	二、七〇〇圓	二、一〇〇圓	二、八〇〇尾	三、八〇〇尾	二、七〇〇圓	一、一〇〇圓	一、一〇〇圓	三、八〇〇尾	二、八〇〇尾	一、八〇〇尾	三、八〇〇尾	三、八〇〇尾

以上示す如く少くとも同期間に於ては從來の漁場より優良なる事明なりとす。

(比北海區とは比島北部漁場、八重山漁區とに八重山南部百四十哩附近漁場を指すものなり)。

新漁場調査試験圖

試験船 照洋丸

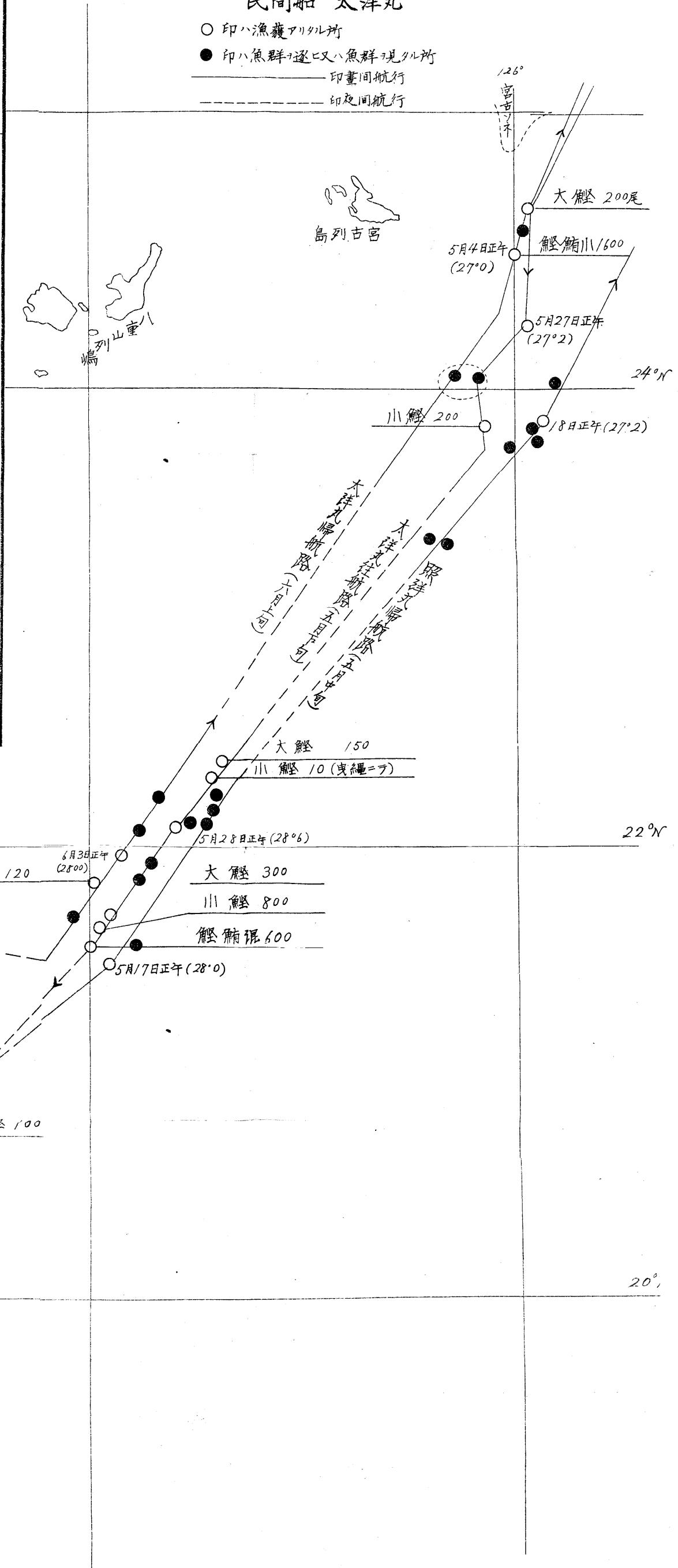
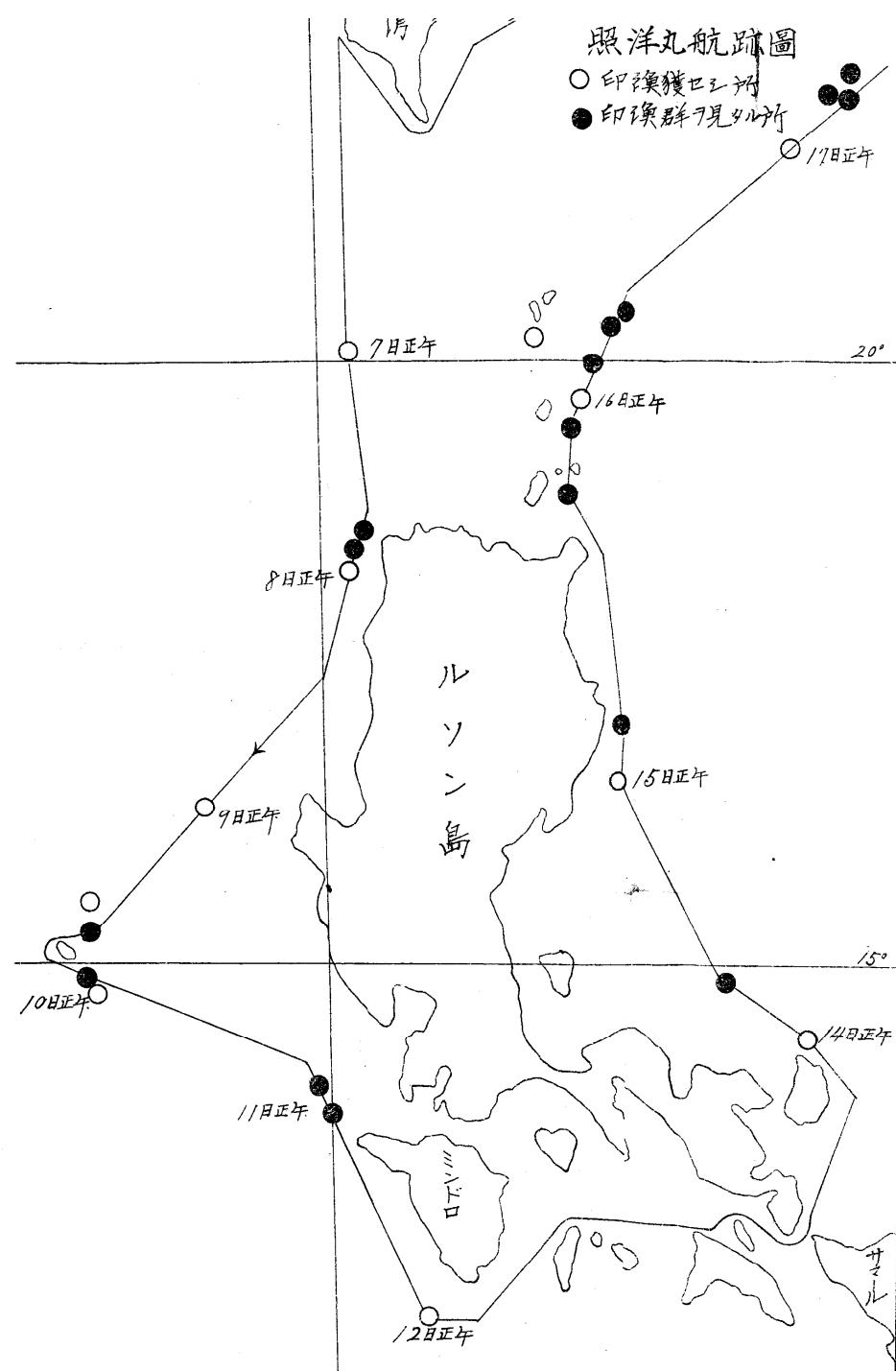
民間船 太洋丸

○ 印ハ漁獲アリタル所

● 印ハ魚群ニ又ハ魚群見タル所

印画間航行

印夜間航行



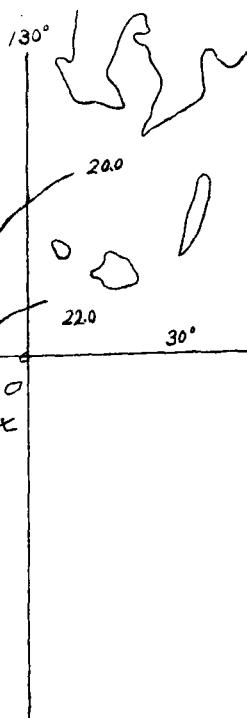
一般海況と漁況

(本年春漁期中に於ける照洋丸の調査を基本としたる一般海況と枕崎船の漁況を記す)

二月十一日七島近海にて中鱗貳千七百余尾（壹万五千百六斤金四千四百圓）を得たるを本年の初漁とし中旬各船好漁にて何れも中鱗を得入港するもの十一隻に及ぶも下旬に至り魚体小型となり漁況亦振はず例年の初漁期と比較するに飛大皆無にして大版極めて少く中版揃ひなりし所漸次小判と變りたるは特に異なる點なりとす。

一隻一航海平均一千六百三十尾金貳千貳拾貳圓にて餌料は鹿児島灣奥部櫻島及垂水より供給さる。

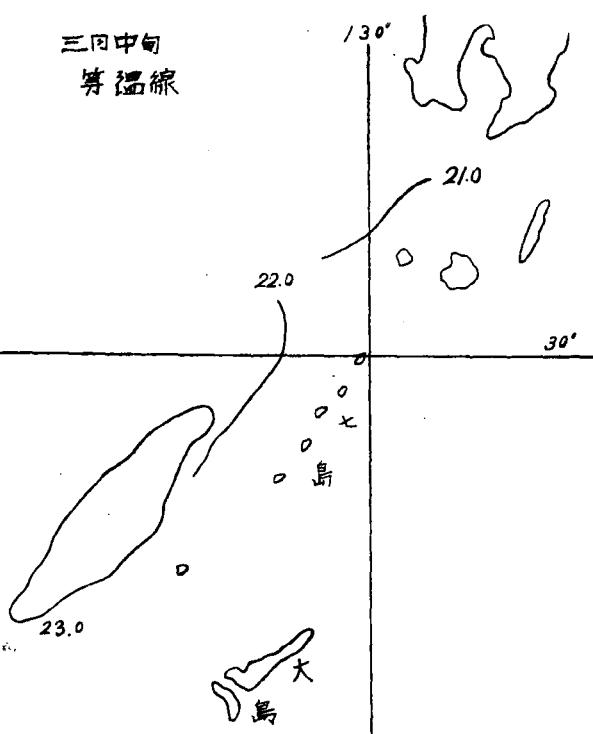
三月 前月下旬より引續き海況不順にして黒潮勢力弱く北西風連吹の爲め前月に比し却て水温低下せる所多く魚群浮上少く漁事振ず例年に比し大版少く小版を増すも斤數減少し從つて價格大激減せり平均一航



三月上旬
等温線

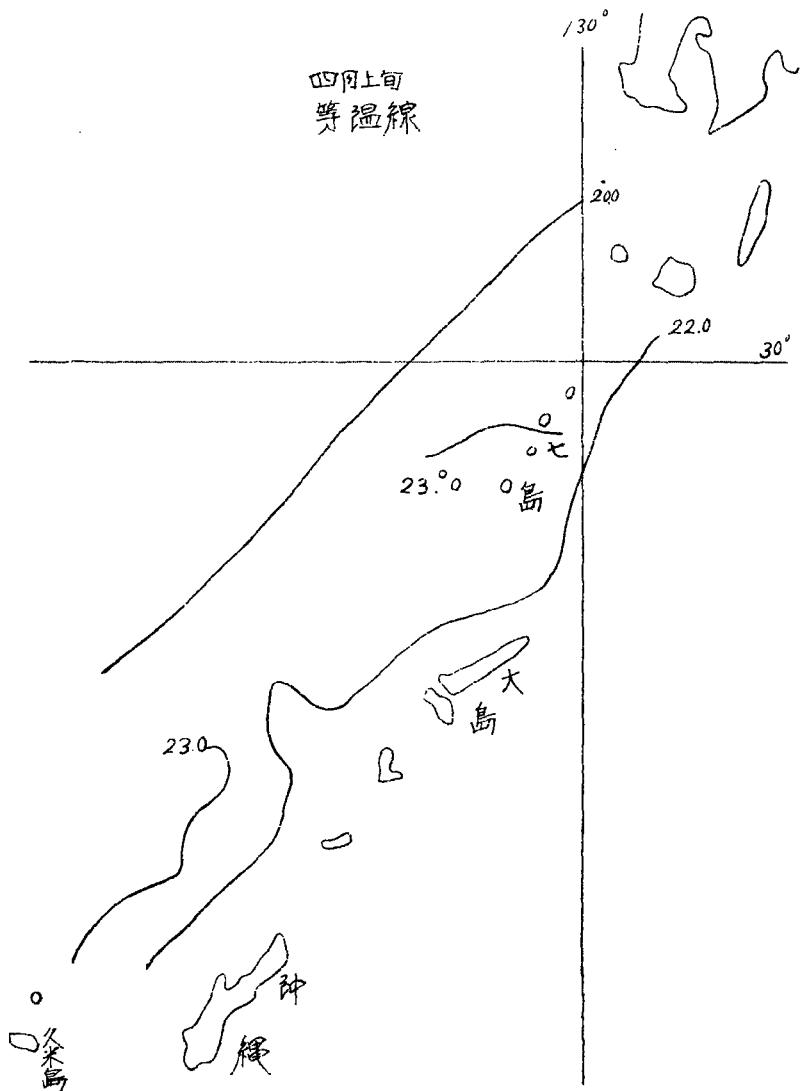
海千六百余尾金壹千貳百圓の小漁に過ぎず漁場は七島近海を主とし沖繩附近に及び各曾根振ず横當島西部五十浬沖合二十二度五分内外の高

三月中旬
等温線

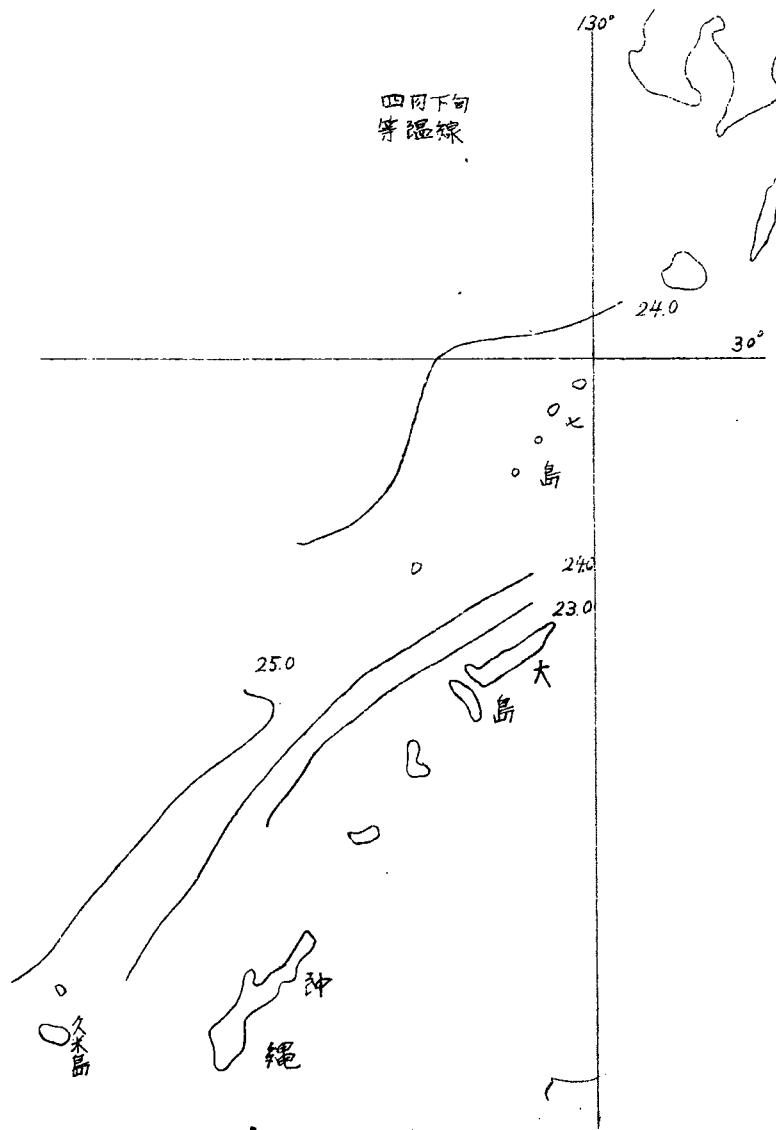
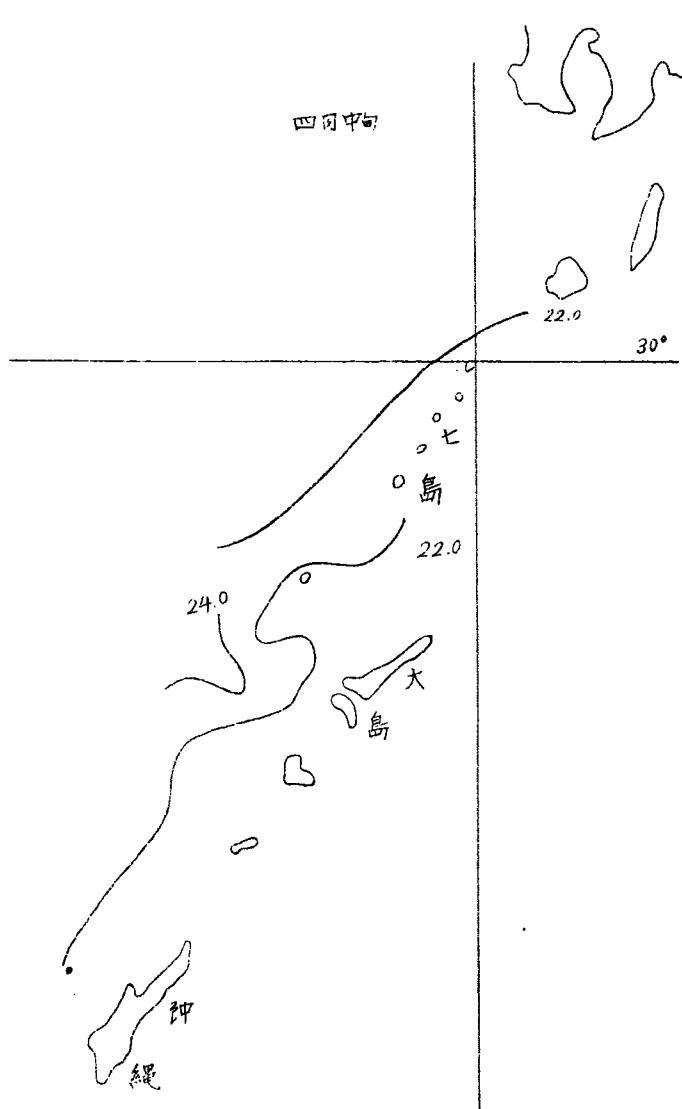


水温滞ありて全方面中鰹群多く比較的好漁あり。

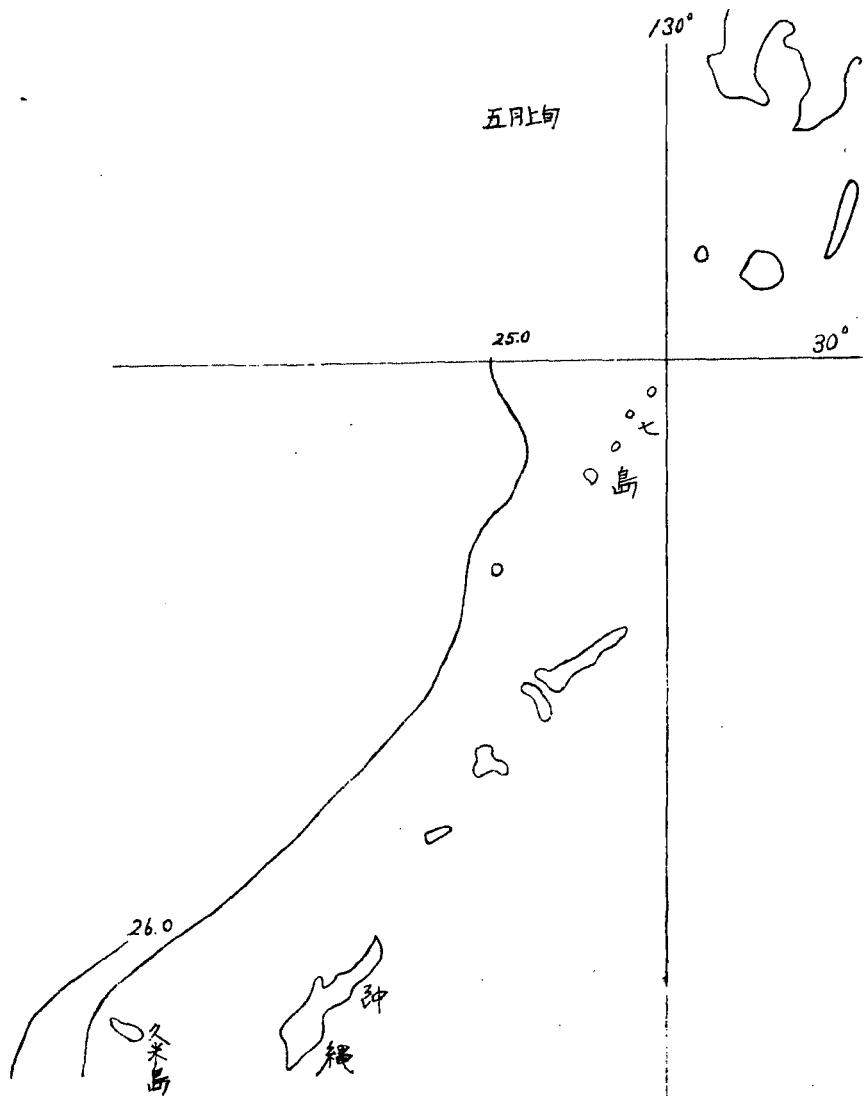
餌料は湾内各地にて供給され山川港に縣外船參集するもの百隻に及べり。



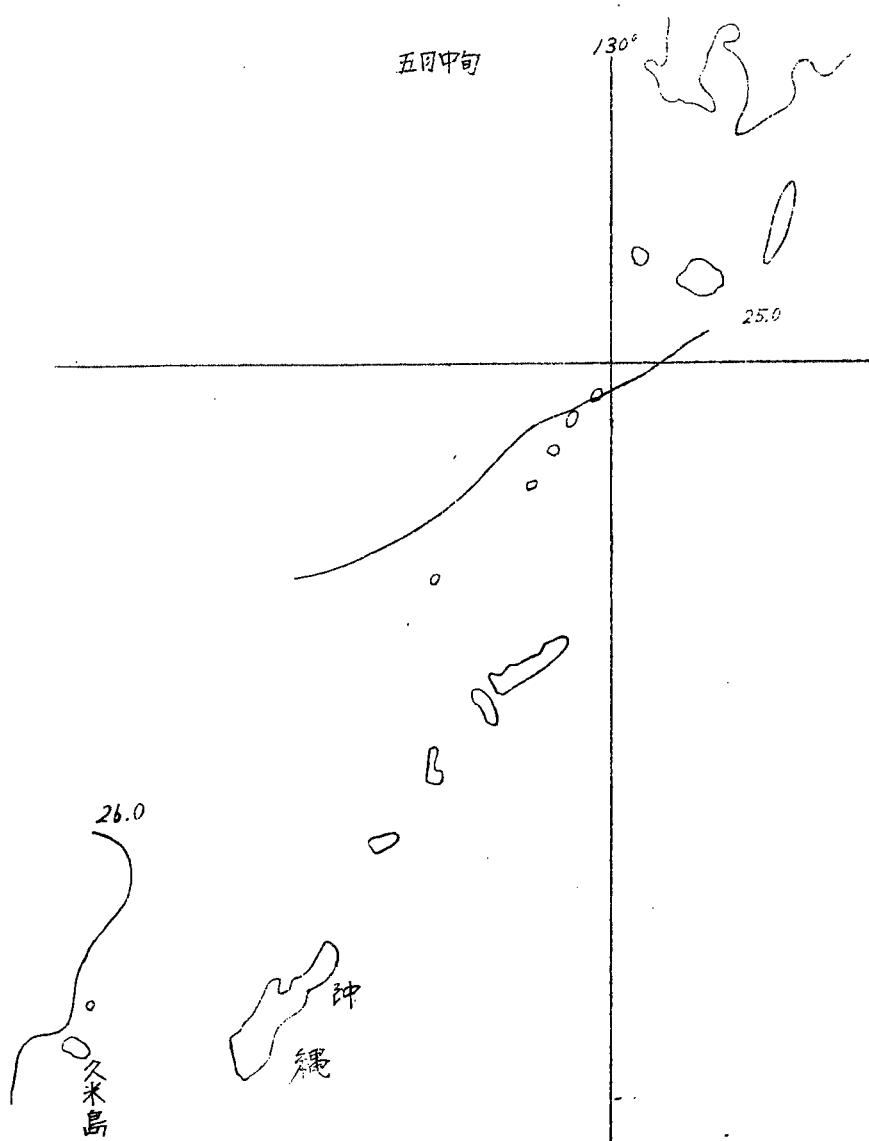
四月 上旬は北西風強く七島漁場は水温低下せる所ありて魚群少く一般に不漁にして水温七島にて二十二度内外北島より久米島に向ひ二十三度を示したるも中旬より黒潮急激に旺盛となり横當島西部沖合にて二十三度以上となり所々二十四度以上を示す所現れ流速亦急にして近海小鰹多く横當西沖方面大中鰹を見各地相當の好漁を見たり、平均一隻一航海參千參百尾金壹千七百余圓を擧ぐ。



五月 初旬に於て大型船は久米島宮古方面に出漁し大鰹の好漁をなすもの多く近海の小鰹は稍薄漁となり水温は二十五度線大島西部に及び沖合は二十六度線の出現を見中旬に至り二十五度線は七島を東に通過し二十六度線は漸次北上の傾向あり久米島西より百尋線に達せり。大小版共漸減し更に下旬に及びては大島近海の稍低温を除く外水温上昇し各漁場漁事極めて振はず良好なる餌料亦少し平均一航海參千參百尾金貳千八拾七圓にて本年中の最高額を示せり。



六月 本期に入り七島沖繩極めて振はず大型船中關東及比島方面に出漁するものを出し水温は七島曾根附近は二十八度に及び大島近海のみ低温にして二十六度内外にて沖繩及八重山南部方面亦二十八度の高溫を示せり本期中旬頃より殘留船中休業するものを出し本春漁期を終れり。本月にては平均一航海二千二百尾金額壹千百貳拾貳圓の少漁に過ず本年は十一月迄出漁し漁獲高貳百八拾貳萬斤價格五十五万圓にして昨年の漁獲貳百五十六万斤價格五十六万七千圓に比れば漁獲に於て増獲あるも價格に於て低下せるは本年は大中版少く小版の増加せると魚價低落せ



るものに依るものなりとす。

一六

鮪 延 繩 漁 業 試 驗

趣旨 本縣に於ける鮪延繩漁業の發達を助長するため其漁區を擴張するものにして從來より繼續し試験せり而して初期の試験區たる種子島南東海面は民間船の出漁するもの多きに至りたるを以て數年來大島以南に漁場を求めるに喜界島南部は昭和一年の試験により頗る民間船の出漁を見るに至れるを以て本年は之等漁場及昨年發見の大東島漁場調査を目的とし試験せり。

経過及成績 本場試験船照洋丸（五十五噸七十五馬力）に船長以下十五名主任者一名乗組み十月二十四日より十二月二十九日迄延繩五十七鉢を準備し大東島種子島沖合にて操業し餌料は主として大島產鰯を冰藏せるものを用ひ漁具材料構造は前年に同じ。

昭和六年十月二十四日より十二月二十九日迄の間に三航海をなし操業二十三回にして鮪類七十七尾其他鱈類を合し金八百九十一圓を得たり之を前年に比するに操業二十四回減にて價格亦金壹千六百參拾七圓を減ぜり。

斯く事業を短縮せるは大島方面漁況極めて不振にて回復の見込み立たざると春鰐試験に際しては本年より民間に率先出漁し指導の任に當る可く方針を變更せるものによる毎航海狀況次の如し。

第一航海 十月二十四日鹿兒島發大島郡古仁屋にて餌料罐購入の上北大東島に到り三十一日及十一月一日全島北部にて操業するも海水混濁し漁獲少く依て徳之島東方五十浬附近及喜界北々東三十六浬附近にて試漁するも何れも水色悪く漁獲なく更に種子島熊野南方二十余浬附近にて試験するに潮流錯亂し水色悪く殆んど漁獲を見ず當分見込なきを以て九日歸麗漁獲物を賣却金八拾貳圓を得たり漁期末だ早きと補機關破損せるものありて二十日迄出漁を見合す事とす。

第一航海 二十二日發途中横斷觀測をなし名瀬港にて餌料を積み北大東島に到り二回操業するも依然不漁なるを以て更に熊野堆種子島東部にて七回試漁するも何れも海況比較的良好にして水溫は昨年同期と比し差無く水色極めて良好なるも漁獲少く十二月四日歸麗僅に金四拾六圓を得たるに過ぎず。

第三航海 十二月七日發古仁屋にて罐餌料を求め三度び大東島に向ひ十四日全島北部沿岸にて操業するにギンダ多く餌料を殆んど食し見込な

尙本年六月七月枕崎船の關東方面に出漁するもの十隻に及べるは特記す可き事とす。

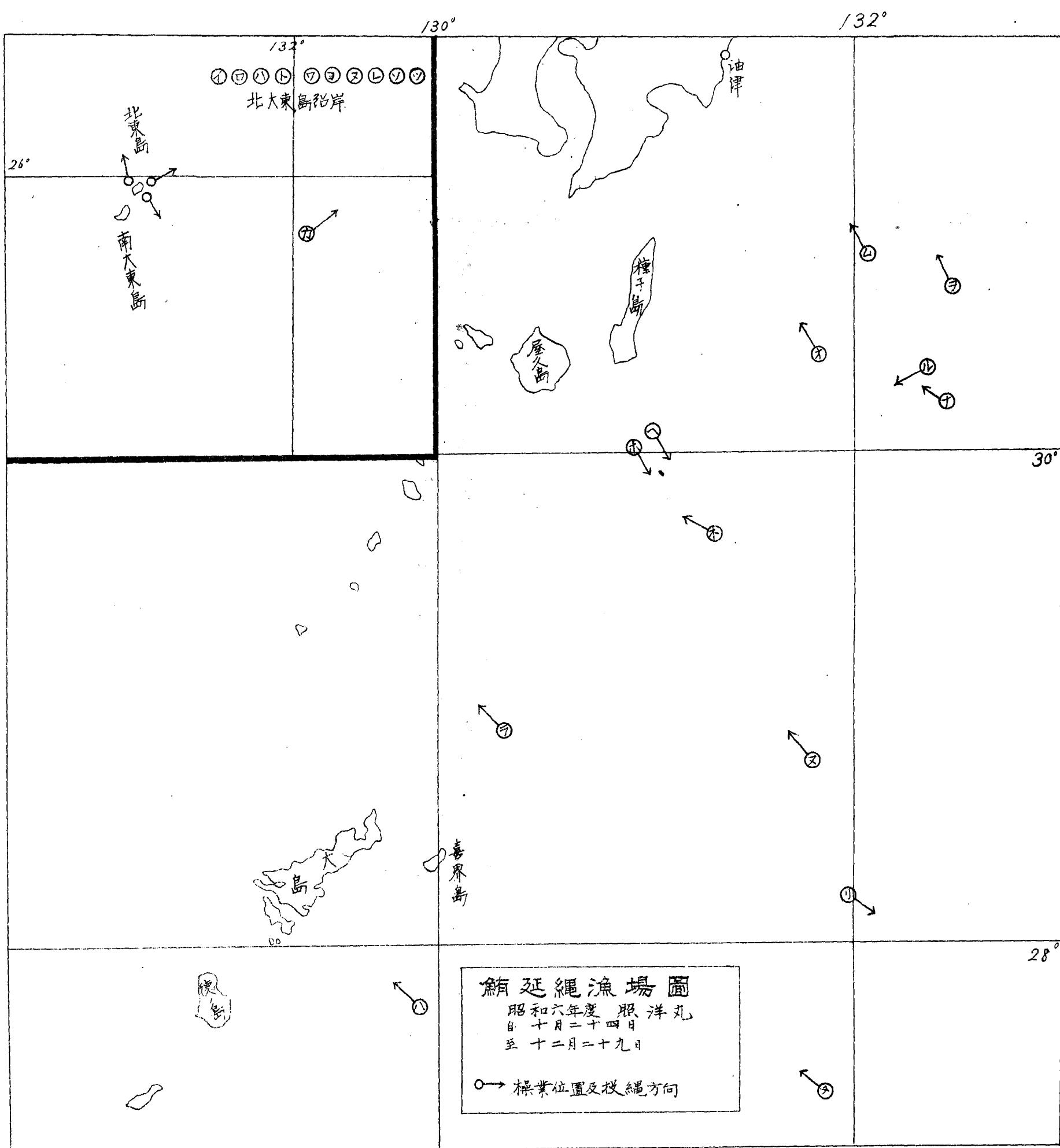
漁業表					
月日			漁場位置		
同	同	同	十一月二十四日	風天候	
八	五	四	十一月二十一日	ENE 2	
日	日	日	十一月一日	B NNE 4	(イ)北大東島ノ
(ヘ)	(ホ)	(ニ)	(ハ)北緯二度三浬	C N 3	(ロ)北東島ノ
東北	東北	東北	北東元三浬	B ENE 3	(ヨ)北西三浬
二、三、四、五、六、七、八	二、三、四、五、六、七、八	二、三、四、五、六、七、八	北東元三浬	B NNE 4	同
至後十二時	自後十二時午	至後正午	自後十時半	自後十一時	自後十三時
43	43	43	40	30	30
24.2	24.9	25.0	25.5	25.5	25.7
NE 急	NE 急	NNE 急	NE 緩	SW 緩	SW 緩
ムロ	ムロ	ムロ	ムロ	ムロ	ムロ
ミキズカ	カキハ	メカジキ	メバチ	アオフカ	ヒラカラシラ
ハダ	ハセダ	七ダ	○	○	イトシビ
一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
八	四	七	六	五	四
共ニ小ニシテ見込少キヲ以テ種子島方面ニ向フ	漁獲少ク且ツラサ島沖合ニ低氣壓現レタルヲ以テ大島方面ニ向フ	鹿兒島發二十六日古仁屋着ノ處餌料ナク餌料三十日得大東島ニ向フ	水色惡クシテ漁獲少シ	漁獲皆無ニシテ從來ニ比シ其例少シ	待碇泊三十日餌料ヲ得大東島ニ向フ
漁況悪ク且ツ船機破損セル爲メ鹿兒島ニ向	漁獲少ク他ニ出漁船ヲ見ズ六日ハ荒天トナリ難七日迄熊野避	漁獲少ク他ニ出漁船ヲ見ズ六日ハ荒天トナリ難七日迄熊野避	漁獲皆無ニシテ從來ニ比シ其例少シ	共ニ小ニシテ見込少キヲ以テ種子島方面ニ向フ	共ニ小ニシテ見込少キヲ以テ種子島方面ニ向フ
夜半着九日販賣	漁況悪ク且ツ船機破損セル爲メ鹿兒島ニ向	漁況悪ク且ツ船機破損セル爲メ鹿兒島ニ向	漁況悪ク且ツ船機破損セル爲メ鹿兒島ニ向	漁況悪ク且ツ船機破損セル爲メ鹿兒島ニ向	漁況悪ク且ツ船機破損セル爲メ鹿兒島ニ向

く依て全島東微南四十浬附近にある比較的淺所に到るに之れ亦大糸鮪一尾の小漁に過ぎざるを以て再び全島に歸り東北角沿岸にて試漁するに鮪計二十尾其他鱈を混する好漁をなし引續き四回の操業にて鮪類計五十五尾其他雜魚數尾を得二十二日大島に歸り更に餌料を求めて二十四五兩日種子島東部五十浬及七十五浬附近にて操業するも漁獲なく二十六日油津に寄港漁獲物を販賣し金七百六拾四圓を得全日發二十七日午前午後再回に亘り油津より南東微南七十五浬及南々東六十浬附近にて操業するも漁獲なく二十九日歸屬し本試験を終りたり。

一般漁況 従來不漁年と雖も大島方面に於ては操業場の如何を問はず一回二二尾の小鮪の漁獲ありたるも本年に於ける各地殆んど漁獲なく魚群極めて稀薄にして好漁の見込少しきを以て各回民間船に漁況を報じ出漁見合し方に付き注意を與ふるも五島方面亦九月以來カジキも嘗て見ざる不漁の爲め串木野船の大島方面に出漁するもの二十隻余に及びたるも何れも不漁に悩み十二月末油津方面黒鮪の來游と共に全部引き揚ぐるに至れり。

漁場ニ於ケル水溫比重表

同上荒天トナリ翌日油津入港漁獲物販賣ス
附近ニ多數館繩船ヲ見ル
夜半ヨリ荒天トナリ鹿兒島ニ向ヒ二十九日
着本試験ヲ終ル



旗魚延繩漁業試験

趣旨 朝鮮南海に於けるカジキ延繩漁業は本縣より縣外に出漁する漁業中重要性を有するものなるも近年出漁船の増加に伴ひ漁場荒廢せらるを以て朝鮮東部海面に漁場を開拓せんとし鬱陵島竹島附近に該漁業の適否を調査すべく本試験を施行せり。

経過成績

試験船光洋丸に船員九名主任者一名計十名乗組み漁具は幹繩の長さ六百尋枝繩十二本附の延繩十九鉢を準備し昭和六年八月一日より十月十三日迄四航海をなし從漁期間七十四日中投繩日數二十日延鉢數三百三十一鉢（釣鈎三千九百七十二本）にてカジキ二十九尾メカジキ八尾クロシビ一尾フカ三十三尾にて價格八百八十一圓を得たり毎航海の狀況左の如し。

第一航海 八月一日鹿兒島港を出帆し串木野に寄港の上五日全地發朝鮮へ向ひ途中蔚山沖合にて黒皮カジキ一尾を鈎にて突き七日浦項入港水石油の補給をなし八日全地發鬱陵島に向ひ九日全地着十日十一日全地沿岸にて操業メカジキ一尾アヲフカ五尾十二日十三日は餌料サバの釣獲なく休漁し十四日全島附近にてアヲフカ一尾十五日十六日竹島（リヤンコ）附近にてアヲフカ二尾十七日休業十八日鬱陵島にて黒皮カジキ一尾アヲフカ一尾を得十九日二十日荒天休泊二十一日鬱陵島の南々西二十八浬にてマカジキ二尾黒皮カジキ二尾メカジキ一尾アヲフカ三尾を得相當漁場たるを認めたるも船員發病せるものありたるを以て歸途に就き二十四日鹿兒島港へ歸着せり。

操業日數七日延鉢數九十六鉢（釣鈎千百五十二本）にて漁獲物カジキ六尾メカジキ二尾クロマグロ一尾アヲフカ十二尾にて三百六十一圓を得たり。

第二航海 八月二十九日鹿兒島港出帆長崎港にて氷積込をなし途中荒天にて對馬嚴原に避泊四日發九龍浦に至り五日申着網にて漁獲されたるサバを餌料に購入鬱陵島に向け六日七日全島の南々西三十浬附近に操業アヲフカ各一尾宛長鬃岬の東北東三十七浬淺礁ある附近にてアヲフカ一尾九日蔚崎の東十浬に操業したるも漁獲なく十日釜山入港四日操業延鉢數六十七鉢（釣鈎八百四本）にてフカ三尾十一圓を揚げたり。

鬱陵島の南々西三十浬附近は前航海にて相當漁獲を見たるに拘らず本航海にては一尾の「カジキ」さへ見るを得ず四日操業にてアヲフカ三尾の凶漁に終りたるが之に就ては水溫不良と害敵との二大原因によるものゝ如く特に害敵の妨害は各漁場何れも顯著にして河豚（フグ）及イカの所業によるものならんが午前六時頃投繩せるものを全十時頃調査するに既に過半數は奪餌され殘餌も魚体の各所を齧食し餌料的價値を著しく低落せしめられたり。

第三航海 九月十二日釜山出帆十三日濟州島牛島の南々東三十二浬にてサバ釣をなすに餌付割合に良好にて三百二十尾を釣獲十四日牛島の南

東四分の三東三十七浬に操業カジキ六尾フカ一尾十五日は牛島の南東四十浬にてフカ三尾十六日は牛島の南東微南二分の一南四十八浬にてカジキ四尾メカジキ一尾フカ二尾十七日は荒天にて漂泊十八日は亘文島の南二分の一東二十二浬にてカジキ六尾メカジキ四尾フカ五尾十九日は牛島の東二分の一北十八浬にてカジキ一尾フカ一尾を得二十日釜山港へ歸着せり。操業五日延鉢數九十二鉢（釣鉤數千百四本）にてカジキ十七尾メカジキ五尾フカ十二尾價格四百三十六圓を得たり。

第四航海 二十一日釜山港出帆二十日サバ釣を施行したるも釣獲皆無二十三日荒天にて巨文島へ避難し荒天續きて二十七日迄全地に休泊廿八日出漁せるもサバの不漁と荒天にて十月一日迄操業をなし得ず十月一日亘文島の南々東三十五浬に操業カジキ一尾フカ一尾三日亘文島の南微東四分の三二十八浬にてカジキ四尾四日全島の南東微南二分の一南二十四浬にてフカ二尾を得水補給の爲亘文島へ入港せり。六日出漁サバ釣を行ひたるに餌付良好にて千十尾の釣獲あり七日牛島の南東二十八浬にてアヲフカ一尾を得八日濟州島馬羅島の南微西二十四浬に操業メカジキ一尾フカ二尾を得夕刻より荒天となり十日迄漂泊日和を待ちたるも風嵐ぎざるを以て鹿兒島へ向け十一日甑島に避泊十二日全地發十三日鹿兒島港歸着本航海を以て本年度試験を終了せり操業四日延鉢數七十六鉢（九百十二本）にてカジキ六尾メカジキ一尾フカ六尾價格百七十二圓を得たり。

朝鮮東部の漁況と海況

同	七	日	同島ノ南二分ノ一	三、七	三、三	一六九	二八	二二	四	三米	同
同	八	日	長崎ノ北東三七浬	三、三	三、三	二〇	五八	八四	五	三米	北急
同	九	日	蔚崎ノ東十浬	四、四	一九、五	一八〇	七二	六八	四	北急	急
平	均	水	溫	三、九	二〇、四	一六六	三、六	一〇五	三	云米	稍
									一		

例年に比し表面水温低く且下層冷水の卓越によつて上層暖水層の深さ小にして鬱陵島附近にては表層に對馬暖流層極めて薄く蔽ふのみにして各觀測層の水温差甚しく最顯著なるは八月十五日に於ける竹島の表層二十六度三分に對し百五米層の四度八分にして其差二十一度五分なり。試験個所十一個所の垂直水温の平均を見るに觀測各層毎に約四度の下降にして表面と百五米層との水温差は十四度四分にて竹島方面に其差大にして鬱陵島之に次ぎ朝鮮東近海に小なり。

カジキの漁獲ありたるは八月十八日鬱陵島北東四分の一東四浬の一尾と八月二十一日全島の南々西二十八浬に於ける四尾にして計五尾中二尾はマカジキ三尾は黒皮カジキにて何れも上層水温上升し二十五米層にて二十二度五分以上なる中に漁獲されたるものにて殊に二十一日は勢力稍強き暖流の疏通ありたるもの如く百五米にて十七度四分を示したる際四尾の漁獲を得たるは注目すべきものなり。

九月に入りてよりは表層水温は約三度下降せるも下層は相當水温を保持せるを以てカジキの廻游ありたるものなるべくも全然漁獲を得ざりしはフダイカの餌料奪取の妨害に依るものなるべし。

潮流は朝鮮近海にては北或は北東に急にして鬱陵島竹島附近は潮汐流に支配され流向一定せず水色は透明度高き割に比較的不良なりき。準備せし漁具は一鉢六百尋の幹繩二十六尋と十八尋の枝繩を各六本宛交互に附し枝繩の先端に三尋のセキヤマと一尋半のワイヤを附したるものなるが八月十日十一日兩日操業の結果下層水温の寒冷なるを知り枝繩を短縮するの必要を感じ前記のものを改造し十尋前後の短枝を加へたるに十八日漁獲せる一尾は八尋枝に二十一日漁獲せるものの中三尾は十六尋枝に一尾は十八尋枝にて得られたり。

鬱陵島に於けるサバの漁期は五月より七月月中旬迄なるを以て漁期終了後の八九月はサバの滯游少なく道洞の東四浬より七浬附近及竹島附近に火光にて集魚し手釣りせるも魚群濃厚ならず餌料として稍々不足なり魚種は全部マサバにて魚型は大小不揃大型は二百匁小型は四十匁のものが混獲され孕卵せるものとせざるものとあり竹島附近は鬱陵島より魚群多き模様にて型稍々小なりき。

第一航海の往航蔚崎沖にて數尾のカジキの廻游を認め中一尾を鋸にて漁獲し或は九月二十一日の鬱陵島の南々西二十八浬に於ける釣獲或は秋

期迎日灣の定置漁具に數十尾群をなして漁獲さる等の事實より推察して東部朝鮮近海には相當カジキの廻游あるものと認むるも今回一ヶ月に亘り十一回の操業をなし試験なしたるに拘ず好漁場を發見するを得ざりしは例年になく寒流の卓越せるとフグ、イカの妨害によるものなれば適温水流通し害敵の來游せざる時期を見て操業せば相當漁獲を揚げ得るものと信するも其の漁期は比較的短期なるべし。

濟州島近海の漁況と海況

月 日	漁 場	水			透明度	潮 向 速	カジ キ	漁 獲	物 力
		表 面	一二五 米	一五〇 米					
九月十四日		牛島ノ南 三十七 浬			西、一	二四、一	七、八		
十五日	同	牛島ノ東 三十九 浬			西、二	二六、一	六、一		
十六日	同	牛島ノ東 四十 浬			西、三	二五、一	五、六		
十八日	同	牛島ノ東 四十二 浬			西、四	二五、一	五、五		
十九日	同	牛島ノ東 四十三 浬			西、五	二五、一	五、六		
十月二日	同	牛島ノ東 四十四 浬			西、六	二五、一	五、五		
三日	同	牛島ノ東 四十五 浬			西、七	二五、一	五、五		
均	水	巨文島ノ南 五十八 浬			西、八	二五、一	五、五		
八日	馬羅島ノ南 四四 浬	巨文島ノ東 五十九 浬			西、九	二五、一	五、五		
二十七日	同	巨文島ノ東 六十 浬			西、十	二五、一	五、五		
二十八日	同	巨文島ノ東 六十一 浬			西、十一	二五、一	五、五		
二十四日	均	巨文島ノ東 六十二 浬			西、十二	二五、一	五、五		
平		巨文島ノ東 六十三 浬			西、十三	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 六十四 浬			西、十四	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 六十五 浬			西、十五	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 六十六 浬			西、十六	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 六十七 浬			西、十七	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 六十八 浬			西、十八	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 六十九 浬			西、十九	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十 浬			西、二十	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十一 浬			西、二十一	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十二 浬			西、二十二	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十三 浬			西、二十三	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十四 浬			西、二十四	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十五 浬			西、二十五	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十六 浬			西、二十六	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十七 浬			西、二十七	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十八 浬			西、二十八	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 七十九 浬			西、二十九	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十 浬			西、三十	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十一 浬			西、三十一	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十二 浬			西、三十二	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十三 浬			西、三十三	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十四 浬			西、三十四	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十五 浬			西、三十五	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十六 浬			西、三十六	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十七 浬			西、三十七	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十八 浬			西、三十八	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 八十九 浬			西、三十九	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十 浬			西、四十	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十一 浬			西、四十一	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十二 浬			西、四十二	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十三 浬			西、四十三	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十四 浬			西、四十四	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十五 浬			西、四十五	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十六 浬			西、四十六	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十七 浬			西、四十七	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十八 浬			西、四十八	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 九十九 浬			西、四十九	二五、一	五、五		
		巨文島ノ東 一百 浬			西、五十	二五、一	五、五		

表層水温は北方に寒南方に暖にして巨文島の南四十浬附近は寒暖兩水の接觸點にして僅少の航走によりよく水温の變化を來たし或は寒暖入り

組み等して甚だ複雑なる海況を呈せり。

垂直水温は表面の二十五度四分を最高海底の十五度を最低とし差は十度四分観測十回の平均垂直水温差は表面の二十三度七分に對する百五十米層（畠々海底）の十五度七分にして八度の差を示し朝鮮東岸の十四度四分に比すれば其差遙に小なり。

潮流は多く北東に流れるも時に南偏せる逆潮流を見るが朝鮮南岸沿岸水の懸流によるもの如く此際は水温低下し水色不良となり漁獲状況亦不

良となり透明度は十三メートル乃至二十二メートル、水色は二乃至五にて近岸より沖合の高水温個所程良好なり。

カジキ漁獲は表面水温二十三度五分以上なりし時に良好にして二十三度五分以下なる時は漁獲を見ず、潮流的には北偏せる急潮の際に宜しく又水色良好にして透明度大なる時に比較的好漁を見たり、亘文島及濟州島近海の水温二十三度前後水色不良なる附近には屢濃厚なるカジキ群の迴游多きを見たるも釣獲するを得ざりき。

餌料用鰯は亘文島の南五十浬附近の水温二十四度水色良好なる個所に相當漁獲ありたるも他は不漁にして餌料に不足を生ぜし程にて種類は殆んど丸鰯にしてマサバは小量混獲されたるのみなり。

本年度試験にて延繩によりカジキの漁獲ありたるは朝鮮東岸の五尾濟州島近海の二十三尾計二十八尾にて内八尾はマカジキ二十尾は黒皮カジキにしてマカジキに比し黒皮カジキは断然多し

セキヤマは白黒兩様のものを用ひたるが十六尾は白色セキヤマに十二尾は黒色セキヤマに釣獲せられ六に對する四の割にて白セキヤマ優良なり。

一般海況 本縣民間船は亘文島を根據地とする約二十隻の谷山船が全島附近に五島の玉の浦を根據地とする串木野船が約八十隻濟州島南に從漁せるが谷山船の活動區域には魚多きを見るも水温の低きと水色の混濁により魚獲り悪く且つ餌料鰯の不足勝に困難し漁況振す串木野船は九月十一日夜半襲來せる颶風前は相當漁獲を揚げたるも此颶風により出漁中の金西丸第三蛭子丸の二隻は遭難し之が爲め他の僚船は遭難船搜索に多くの日數を消費して好漁期を失し加へるに船員に與へたる海難恐怖の精神的打撃は多大なるものあり其後も蒼天飯きなりし海上に操業を意の如くなさしめず漁獲減少と相俟つて魚價安にて各船共不漁なりき。

漁業表 旗魚延繩漁業

(昭和六年光津丸)

月	日	天候	漁場位置及符號	漁具使用時	數繩	表面	潮向速	餌料	漁種	種類	一尾數	金額	記事	事
同 八 月 五 日	八 月 一日													

同 二十四日	同 二十一日	同 二十日	同 十九日	同 十八日	同 十七日	同 十六日	同 十五日	同 十四日	同 十三日	同 十二日	同 十一日	同 十日	同 九日	同 八日	同 七日	
南々西 3	晴 (ト) 二十八浬 南々西	南々西 3	晴 (へ) 分ノ一 南々西	晴 東北東 1	雨 (ボ) 竹島ノ一 東南東 7	晴 南 2	晴 (ニ) 竹島ノ二 北東四 浬	南 1	晴 (ハ) 五浬 一分ノ一 北東四 浬	南 1	晴 (ロ) 道洞ノ二 分ノ一 南東微 浬	北西 1	北 1	北 1	晴 南西 1	
至自後 七、 前、 三、 日	至自前 六、 前、 三、 日	至自前 五、 前、 三、 日	至自前 四、 前、 二、 日	至自前 六、 前、 二、 日	至自前 五、 前、 二、 日	至自前 六、 前、 一、 日	至自前 五、 前、 一、 日	至自前 六、 前、 一、 日	至自前 五、 前、 一、 日	至自前 六、 前、 一、 日	至自前 五、 前、 一、 日	至自前 六、 前、 一、 日	至自前 五、 前、 一、 日	前、 一〇、 三〇		
17		12		14	14	14						11	14			
26.4	25.0	26.3	25.6	26.3	26.7							24.8	24.2	17.8		
南々西 3		北 西 緩	北 西 緩	東北東 緩	東北東 緩	南 南東 緩						北 西 極 緩	南 西 極 緩			
氷漬サバ		氷漬サバ	氷漬サバ	冰活 サバ	冰活 サバ	冰活 サバ						氷漬サバ	活サバ			
フキメカマ カジグ カジキロ		カジ カギ	カジ カギ	ナシ	フ カ	ブ カ						フキ カ	メカジ カ			
三二、四二		一二二		二	一							二二、三				
				二二一圓												
前十一時鹿兒島歸着第一航ヲ終了ス		漁夫一名發病セルヲ以テ歸途ニ就ク		荒天トナリ空洞假泊		夜鯖釣スレド釣獲ナシ		道洞港ニテ休泊		サバ百五十尾釣獲		鯖百尾ヲ釣獲シテ竹島ヘ向フ		夕刻ヨリ道洞ノ東西二浬ニテ餌料用鯖不良ニテ釣獲十尾		午後六時薩摩島ヘ向フ

夕刻ヨリ道洞ノ東南東二浬ニテ餌料用鯖不良ニテ釣獲十尾
百八十尾ヲ釣獲ス

ニテ魚獲シ同四時二十分浦項入港

カジキ

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九月一日	八月廿九日
十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	卅日		
南曇 々々西 1	東曇 北東 4	北曇 々東 3	西北 西 2		晴 北東 2		晴 東 3	晴 南東 1	晴 南々西 4						
(カ)二牛島ノ 二分ノ一 南四八哩南 哩南	(ワ)牛島ノ 三東三十七哩 哩四分	(ヲ)牛島ノ 南東四十 哩南		(ル)尉崎ノ 東十哩	(ヌ)長崎岬ノ 東二分ノ一 哩北東微		(リ)同島ノ 西廿哩	(チ)鬱陵島ノ 二八哩							
至自後 前	至自後 前	至自後 前	至自後 前		至自前		至自前	至自前	至自前						
七六、 四〇	六六、 二〇	七六、 二〇	七六、 二〇		五六、 五五		五六、 四〇	五六、 四〇	五六、 四〇						
18	18	18			19	16	16	16							
23.5	23.4	24.1			24.4	23.3	23.7	22.5							
北 東 急 緩 水 漬 サ バ	南 東 急 緩 水 漬 サ バ	北 東 急 緩 水 漬 サ バ			北 東 急 緩 水 漬 サ バ		北 急 イ 水 漬 サ バ	南々 西 急 イ 水 漬 サ バ							
フキ カジ カジ ジキ カ	メカ サ バ	カ サ バ			ンカ ジ カキ		カ ナシ	カ カ							
一一一 一一 一一一															
夜間鮎八十尾ヲ釣 獲ス															
前二時釜山入港第二航海ヲ終了ス ク前十時二十分釜山出帆第二航海ノ途ニ就 タ刻ヨリ牛島ノ南々東三十二哩ニテ鮎釣 從漁三百二十尾ヲ釣ル 夜鮎八十尾ヲ釣ル									揚繩終了後尉崎沖へ向フ 終了後釜山へ向フ						
船頭 ナク漂泊休業 夜間鮎三百二十尾ヲ釣獲ス									イカ八十尾釣獲サバ釣レズ						
繩ノ附近ニ旗魚ノ廻游ヲ見タルモ釣獲ハ ナカリキ夜間ノ鮎モ亦釣レズ															

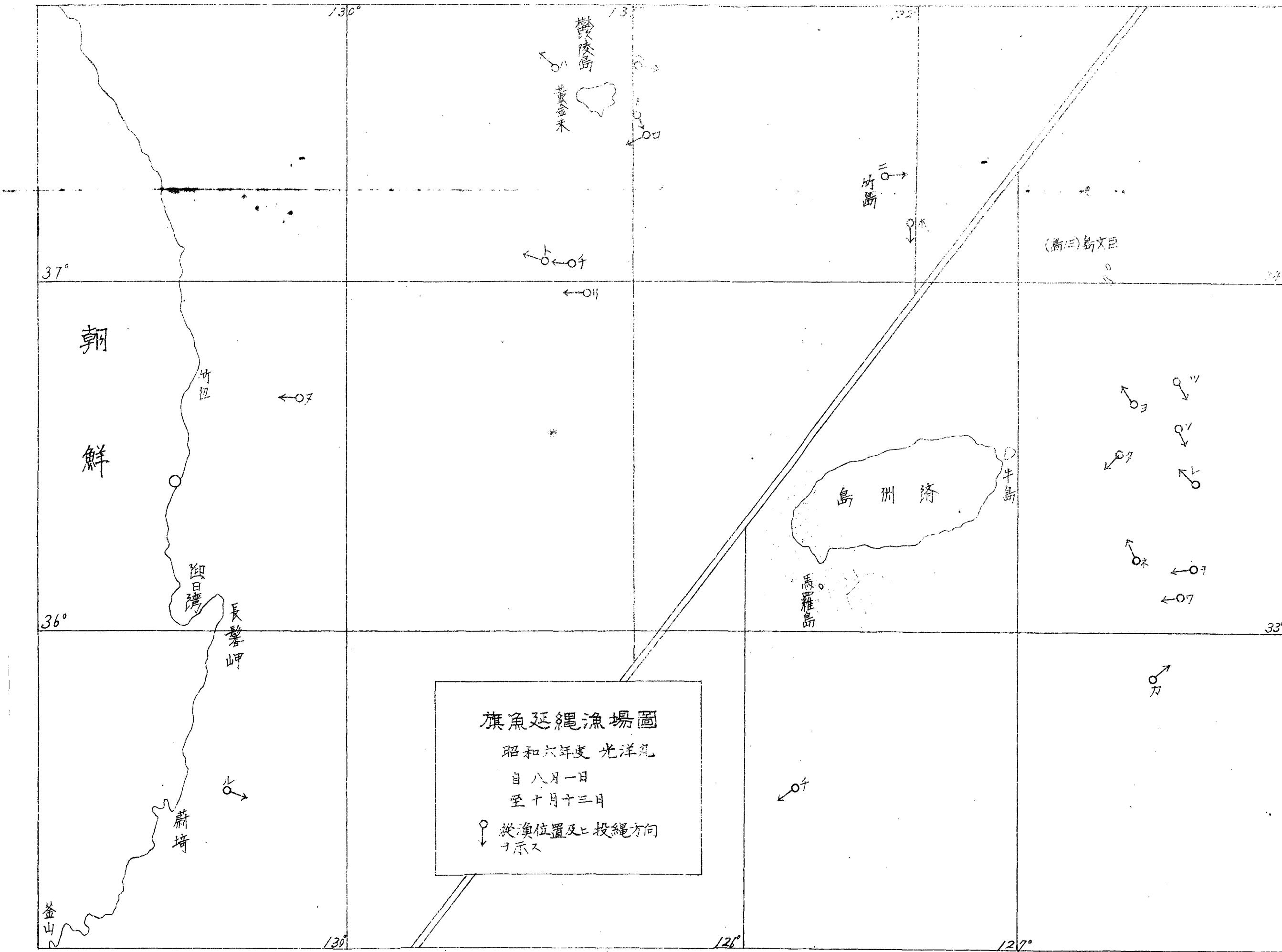
前零時嚴原ヲ發シ後四時十八分九龍浦入
港

荒天ニテ長崎避泊

長崎ヲ出帆セシモ風強ク航海困難ナルヲ
以テ嚴原へ避泊

九月	同	同	同	同	同	同	十月	同	同	同	同	同	同	同
廿一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿九日	廿八日	廿三日	廿二日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日
晴	西北東4	西北西4	西北東4	西北東4	西北東4	西北東4	西北西6	西北西5	西北東3	西北東2	西北東2	西北東2	西北東2	西北東2
(ヨ)牛島ノ南東二十里	(タ)牛島ノ東二分一	(ヨ)巨文島ノ二分一	(タ)北十八浬	(ヨ)東北東4	(タ)東北東4	(ヨ)東北東4	(タ)巨文島ノ南東二十里	(ヨ)巨文島ノ南東二十里	(タ)巨文島ノ南東二十里	(ヨ)巨文島ノ南東二十里	(タ)巨文島ノ南東二十里	(ヨ)巨文島ノ南東二十里	(タ)巨文島ノ南東二十里	(ヨ)巨文島ノ南東二十里
至自後前六六、吾	至自後前六六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾	至自後前五六、吾
15	15	18	10										19	19
24.2	21.0	22.8	22.8	23.5	25.4	22.0	21.7	22.5	23.0	23.0	24.4		22.8	24.0
北	東	東北東緩											南々西緩	北急活
水活サババ	水漬サババ	水活サババ	活サバカジキ	活サバカジキ	活サバカジキ								水漬サババ	急活サバ
カ	カ	カ	カ	カ	カ								カジキ	カジキ
一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六	一一五、四、六
一	二	四	一一											
七三														
後八時二十分ヨリ南西微西へ航走ス	前十一時三十分巨文島發夕刻ヨリ鯖釣從漁師付良好ニテ千十尾ヲ釣ル	旗魚ノ廻游多キヲ見タルモ漁獲ナシ水色不良ト水温ノ低キニヨルナラン	鯖全然釣レズ	鯖釣從漁スレド釣獲ナシ	鯖釣從漁スレド釣獲ナシ	鯖ノ餌付割合良好ニテ釣獲四百尾	八十尾	鯖釣從漁スレド釣獲ナシ	荒天續ニテ廿七日迄同港ニ休泊ス	荒天續ニテ廿七日迄同港ニ休泊ス	後十時釜山出帆第四航海ノ途ニ就ク	後二時十分釜山入港第三航海ヲ終了ス	揚繩後釜山ヘ向フ	鯖ノ餌付極メテ不良ニテ釣獲五十尾

計	同	同	同	同	同	同	同
十三日	九日	八日					
晴	晴	北々西	北々西	北々西	北々西	北々西	北々西
西2	北東6	西6	東6	西4	西4	西4	西4
(ナ)甘馬羅島ノ南微西							
至前七、五至							
18							
24.3	22.9	23.7					
東							
緩							
フグクキメカ ロロカジ カマジキ							
フキメカジ カ							
三二八元							
六一圓							
荒天漂泊							
波高ク鯖釣不可能漂泊ス							
向フ風風ギザルニ就キ前十時二十分鹿兒島へ							
後六時四十分鹿兒島着本航海ヲ以テ本年							
度試験ヲ終了セリ							



瀬魚延繩漁業試験

趣旨 本縣に於ける瀬魚延繩漁業は種子島屋久島口永良部島近海の底礁に限られ漁場の荒廢するものありて新漁場探求の要あるを以て之をヒ島より大島方面に求めるとし昭和三年度より試験に着手し漸次該方面に出漁船を見るに至るも尙之が助長を圖らんとし本年も引き続き試験に着手せり。

経過及成績 試験船光洋丸は船長以下十名主任者一名乗組中層延繩二十五鉢（一鉢五十本付）を準備し昭和六年十二月一日より七年一月十八日迄六航海をなし投繩鉢數七百六十一鉢にして瀬魚二千八百七十二尾價格一千二百九十三圓六十錢を得たり。

毎航海の狀況左の如し

第一航海 諸準備を整へ十二月一日鹿兒島港發寶島に向ひ二日三日六日寶島南東三浬より四浬に五日七日沖曾根に操業し八日鹿兒島港着漁獲物賣却操業六日投繩鉢數百三十六鉢にして瀬魚六百二十尾價格百六十圓九十錢を得。

第二航海 十二月十日鹿兒島港發十一日十二日メクラソネに操業し十四日サンゴソネに操業し十五日寶島南東三浬に十六日全島南一浬に十七日オガソネに十八日寶島南一浬に十九日全島南東三浬に操業の上二十一日鹿兒島港歸着漁獲物賣却操業八日投繩鉢數百六十七鉢にして瀬魚五百二十尾價格一百十七圓七十三錢を得。

第三航海 十二月二十二日鹿兒島港發二十三日メクラソネに出漁したるも急潮にて漁獲なく寶島に向ひ二十四日より二十八日まで全島南東三浬に操業の上二十九日鹿兒島港歸着漁獲物賣却操業五日投繩鉢數百十四鉢にして瀬魚三百四十八尾價格百八十六圓四十二錢を得。

第四航海 昭和七年一月七日鹿兒島港發荒天の爲め川尻に休泊後九日十日悪石新ソネ及小寶島西南西二浬十二日全じく全島西南西二浬十三日全じく全島西南西二浬に十三日全島南々東四、五浬及全東南東三浬全北西一浬に十四日全北西一、五浬及寶島西一、五浬十五日寶島南一浬及全島西一、五浬小寶島西南西二浬に十六日全島西一、五浬に操業の上十八日鹿兒島港歸着漁獲物賣却操業九日投繩鉢數百五一鉢にして瀬魚五百六十三尾價格二百三十四圓五十錢を得。

第五航海 一月二十日鹿兒島港發全夜佐多岬に於てイカ釣りしたるも不漁の爲め二十一日屋久島一湊に至り鰯購入の上二十三日二十四日寶島南東三浬二十五日二十六日サンドン岩に操業し二十九日鹿兒島港歸着漁獲物賣却操業四日投繩鉢數九十八鉢にして瀬魚五百十一尾價格二

百〇八圓九錢を得。

第六航海 一月三十一日鹿兒島港發大島サンドン岩に到り二月一日四日ザンドン岩北西部に出漁し荒天のため大島大熊に避泊後十三日十四日喜界島南七浬に操業し鹿兒島に向ひ途中荒天のため惡石及口ノ島に避泊の上十八日歸着し漁獲物賣却操業六日投繩鉢數九十五鉢にして潮魚三百十一尾價格二百八十五圓九十六錢を得本航海を以て本年度試験を終了せり。

試験成績 谷山、川尻漁船總數は七、八十隻にして近年種子島屋久島附近の近海漁場荒廢するに連れ漸次七島方面に進出しつゝあるも口之島近海北部七島漁場にして南部七島漁場に遠航するものは二三隻に止まりしも前年本場船寶島南東四浬及小寶島周海新漁場を探求し大方漁船の出漁を促すたるため谷山船十余隻は本年全所に出漁し好成績を收めたり然れども之等出漁船は一部漁船に過ぎず尙新漁場を探求し大方漁船の出漁を促すを急務とす而して本年終期に於て操業せる喜界島南は地礁に比し約三倍の二百四五十尋深の個所にして從來該漁業漁場の深さは七八十尋より百五十尋位を限度とし斯かる深所は操業不能として顧みられざりし所なりしも今回試験により高價魚ベニタイの好漁を得たる事實は斯くの如き場所も漁場として價値あるを立證し荒廢漁場にありても尙其の邊縁の深所に好漁場あるを忍ばしめ其の他七島近海にありては斯かる深所は數多に介在するを以て漁場は擴大さる可く沈滯せる該漁業に光明を齎らせしものと謂ふべし。

本年試験せる盲曾根、惡石島、小寶島、寶島近海及サンドン岩喜界島南の各漁礁の狀態及其他に付調査せるもの左の如し

盲曾根 臥蛇島より北西三十五浬の沖合にあり長幅約三浬の礁にして淺所は六十尋岩とあるも本年操業せるは百尋内外底質石花の個所なり。漁獲せる魚類は八十九尾中ホタ六十四尾タイメ十四尾アカバラ二尾アラ一尾マツタイ一尾雜魚七尾にして七島漁場に見ざるタイメ柄息しまツタイ少しきは前者のマツタイを主要漁獲とするに反し大に趣を異にせる所なり、大型の有用魚相當多きも漁場沖合にして島に遠く晴天に非ざれば山見不能にして出漁し難きを不便とす。

惡石島南西部 惡石島南西一浬より二浬附近の海柵にして水深七十尋より九十尋底質石花なるも礁较少にしてマツタイ、シロタイ、タバメ等柄息するも至つて少し。

惡石新曾根 惡石島南西微南七浬にあり水深百尋を越へ底質石花なりベンタイ數尾を得たるも僅か一回の操業にて礁の狀態等不明なり。

小寶島近海 前年來出漁せる全島海柵にして西部より南西方二浬以内は水深六十尋より百尋底質石花よりなりマツタイ多きも小型にして北西部百尋線附近はマツタイ大型なるも少なく東南東より南々東三浬附近は水深七十尋より九十尋底質石花及岩にしてマツタイ大型なるも少な

く岩の部分にはアラ栖息するを認めたり、シロタイ、タバメ、ホタ等何れの部分にも混栖するも數少なし。

寶島近海　寶島西一、五浬附近は水深八十尋より百尋底質は石花よりなり軟かなりマツタイ相當多きも一、二斤大の小型にして其の他ホタ、シロタイ、タバメ混る南一浬附近は水深七、八十尋底質全じく石花にしてマツタイ多く南東四浬附近は前年好漁せる所にして水深八九十尋

底質石花よりなりマツタイ最も多くシロタイ、タバメ、アオマツタイ、アカバラ等栖息し礁廣く繩起きよく操業容易なり。
オガソ曾根　東西に長く約三、五浬幅一、五浬中央部淺所は四五十尋なり底質は硬岩にして魚種はマツタイ、シロタイ、ホタ、アカバラ等にしてホタ、マツタイ多し。

サンドン岩　大島笠利崎より北々東十四浬の點にあり水準高三十尺の岩礁をサンドン岩と謂ひ岩の北部より東南部は前年試験する所なるも本年は北西四浬附近に操業せり、底質石花よりなり軟く水深九十尋乃至百尋にしてマツタイ六七斤大の大型にして他の魚種は交へず然れども柄息の區域狹小にして魚獲ある場所は只一條に過ぎずして此上に繩沈下せる場合は漁あるも然らざる時は殆んど漁獲を見ず投繩に困難を感じるも魚体の大なるを優れりとす。

喜界島南曾根　喜界島南六浬の海圖上百三十七尋岩と記載しある曾根にして投繩場所は此處より南西方二百四五十尋の深所なり底質は珊瑚礁及岩よりなり魚種はベンタイに限られ魚体小なるもの二、三斤より大十斤内外平均五六斤にして操業一日余投繩二十一鉢にて百二十九尾を得一鉢平均六、二尾に當り魚体大型なると高價魚なるに依り當業者の何れも探し求むる所にして有望なる礁と謂ふべし。

漁場別漁獲高

漁場	投繩數	漁獲尾數	一鉢平均尾數	獲物種類
盲曾根	三鉢	三尾	三九尾	マツタイ一、アカバラ二、ホタ六四、タイメ一四、アラ一、雜七
惡石新曾根	二三	二尾	二八尾	マツタイ一六、シロタイ三、タバメ九、雜五
小寶島西南西二浬	三尾	三尾	一〇尾	ベンタイ二、ホタ一
同南々東四浬	三尾	三尾	五〇尾	マツタイ二一一、アラ六、タバメ一七、シロタイ一六、ホタ一四
同東南東三浬	四六	二〇尾	マツタイ五、ホタ三	アオマツタイ二一一、アカバラ一、雜七
			マツタイ一五、アラ一〇	ホタ七

同北西一、五涅	沖曾根	二九	マツタイ六二 アラ六 タバメ一 シロタイ一二 ホタニ三 アオマツタイ一 雜一
寶島西一、五涅	同南一涅	二八	マツタイ二八 シロタイ一 タバメ二〇 ホタ一 雜一 ホシザメ三
同南一涅	同南一涅	二七	マツタイ一三六 シロタイ五 ホタ二四 タバメ三・アオマツタイ二 アラ一
同南一涅	同南一涅	二六	マツタイ九〇 三アカバラ一五 白タイ六七 アラ一〇 ホタニ四七
サンドン岩北西四涅	オガノ曾根	二五	アオマツタイ二五 ホシザメ一〇 タバメ五四 雜一三
喜界島南六涅	合計	二四	マツタイ一一〇 ホタ三〇 アカバラ一 ホシザメ二
喜界島南六涅	喜界島南六涅	二三	マツタイ一三五 シロタイ一〇 タバメ五五 雜一三
喜界島南六涅	喜界島南六涅	二二	マツタイ二五 白タイ七 ホタ三〇 アカバラ一 ホシザメ二
喜界島南六涅	喜界島南六涅	二一	マツタイ三〇 五 アラ一〇 タバメ五 白タイ七 アオマツタイ一七 アカバラ九
喜界島南六涅	喜界島南六涅	二〇	ベントイ一二九
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一九	マツタイ一七七三 白タイ一三八 アカバラ二八 アラ四四 ホタ四二三
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一八	アオマツタイ四八 ベントイ一三五 タバメ一〇八 タイメ一四 ホシザメ一二二
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一七	雜四一
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一六	マツタイ一七七三 白タイ一三八 アカバラ二八 アラ四四 ホタ四二三
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一五	アオマツタイ四八 ベントイ一三五 タバメ一〇八 タイメ一四 ホシザメ一二二
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一四	雜四一
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一三	マツタイ一七七三 白タイ一三八 アカバラ二八 アラ四四 ホタ四二三
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一二	アオマツタイ四八 ベントイ一三五 タバメ一〇八 タイメ一四 ホシザメ一二二
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一一	雜四一
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一〇	マツタイ一七七三 白タイ一三八 アカバラ二八 アラ四四 ホタ四二三
喜界島南六涅	喜界島南六涅	九	アオマツタイ四八 ベントイ一三五 タバメ一〇八 タイメ一四 ホシザメ一二二
喜界島南六涅	喜界島南六涅	八	雜四一
喜界島南六涅	喜界島南六涅	七	マツタイ一七七三 白タイ一三八 アカバラ二八 アラ四四 ホタ四二三
喜界島南六涅	喜界島南六涅	六	アオマツタイ四八 ベントイ一三五 タバメ一〇八 タイメ一四 ホシザメ一二二
喜界島南六涅	喜界島南六涅	五	雜四一
喜界島南六涅	喜界島南六涅	四	マツタイ一七七三 白タイ一三八 アカバラ二八 アラ四四 ホタ四二三
喜界島南六涅	喜界島南六涅	三	アオマツタイ四八 ベントイ一三五 タバメ一〇八 タイメ一四 ホシザメ一二二
喜界島南六涅	喜界島南六涅	二	雜四一
喜界島南六涅	喜界島南六涅	一	マツタイ一七七三 白タイ一三八 アカバラ二八 アラ四四 ホタ四二三
喜界島南六涅	喜界島南六涅	〇	アオマツタイ四八 ベントイ一三五 タバメ一〇八 タイメ一四 ホシザメ一二二

出漁日數同一ならず又魚体の大小及有用魚種の多寡等あるを以て本表により直に漁場價值を批判するは早計なるも延繩一鉢(枝糸五十本付)に得らる、平均尾數を見るとときは喜界島南第一位にして六、一尾小寶島西南西二涅五、〇尾全東南東三涅四、六尾寶島南東四涅四、三尾全島西一、五涅四、一尾盲曾根三、九尾寶島南一涅及サンドン岩三、一尾他は三尾以下にして全平均は三、九尾となる又五十尾以上漁獲ありたる漁場に於ける魚種別による漁獲率を示せば左表の如し

オガソ曾根	三〇、三	七〇、三	三〇、五	一〇、〇
サンドン岩北西四津	二二	三三〇、八	七〇、〇	一〇、〇
喜界島南六津	二九	二二九〇、八	一〇、〇	一〇、〇
計	二三三一、七九〇、八	二三〇、〇	一〇、〇	一〇、〇

右表によりマツタイはサンドン岩八割四分小寶島西南西二津八割寶島南一津七割六分全島西一、五津七割五分全島南東四津六割三分小寶島北西一、五津五割八分にして之等はマツタイを主とする漁場にして盲曾根及オガソ曾根はホタ多く七割二分と五割八分となり喜界島南はベントイ十割にて他魚を交へざるも多くの漁場はマツタイ漁獲の大部を占めホタ、シロタイ、タバメを交へアカバラ、アラは何れも少し。

魚價 時期により高低あり即ち正月前は高くアカバラ斤四十錢マツタイ三十二錢ホタ三十錢シロタイ二十五錢を唱へしも平時はアカバラ十八錢より二十六錢ベントイ二十五錢より二十九錢マツタイ二十錢より二十二錢ホタ十四錢より二十一錢シロタイ、タバメ十錢より十九錢アラ十六錢より二十一錢の間なりき。

漁業表

(昭和六年度光洋丸)

日	月	日	風向	天候	及漁場位置	使用器具	數網	水表面	速潮向	時漁水深	餌料	種類	漁獲物	記	事
同 三 日 雨 NNW 4	同 二 日 晴 NNW (イ) 同	同 二 日 晴 NNW (イ) 東	月 十二月一日 2	日 晴 NNW 3	漁場位置	漁具	數網	水表面	速潮向	時漁水深	餌料	種類	漁獲物	記	事
至前 六、三	至後 六、〇														
32	19	鉢													
23.2	23.0														
NW 急	○														
80—100尋	90	尋													
サバ	サバ														
白アマ	ホ青	ホア	白アマ												
タバタ	シツ	タ	カツ												
ライ	サツ	タ	タバタ												
メイ	タ	タ	ライ												
六一九	〇二六三二一八														
六〇四	六〇四														
前五時四十五分泊	後七時五十分泊	寶島漁場着	前十時五十分寶島漁場着	後八時四十分鹿兒島港發寶島二向フ											
寶島假泊	寶島假泊														

同	同	同	同	同	同	同	同
十四日 曼 3	十二日 雨 6	十一日 晴 1	十日 晴 1	七日 晴 3	六日 晴 3	五日 晴 4	四日 曼 3
(=) (ハ) 同 サン ゴ曾 根	(ハ) 盲 曾 根	(ハ) 沖 曾 根	(口) 東 四 浬島	(イ) 南 東 四 浬島	(口) 沖 曾 根	(イ) 同	
至後 五、五 五、五	至自前 八、七、 八、五	至自前 八、五、 八、五	至後 四、三 四、三	至自前 五、七、 五、五	至自前 五、五、 五、五	至後 五、五 五、五	至自前 五、五、 五、五
11	4	23	12	29	16	28	
21.4	22.8	22.5	23.0	22.8	23.0	22.9	
E 急	E 急	E 緩	E 急	NE 急	SSE 緩	SW 緩	
90	100	100	80--100	80--100	80--100	80--100	
サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ
ナ シ	ナ シ	雜アタホアマ イカツ ラメタライ	ホタ白マ シバタツ ザメイイ	雜タホ白アマ バタバタ メタイライ	雜ホタ白マ バタタ タメイイ	雜ア青ホ白アマ バタバタ ライタイライ	ホ青タホ シタバ メイメタ

七一四四二一 三四四五一〇 一六九三 一二二二三六 三二七〇

前五時三十分寶島發小寶島北方沖曾根ニ操業シ	前五時三十分泊地發寶島假泊	前五時三十分泊地發寶島假泊	前五時三十分泊地發寶島假泊	前五時三十分泊地發寶島假泊	前五時三十分泊地發寶島假泊	前五時三十分泊地發寶島假泊	前五時三十分泊地發寶島假泊
流急ニシテ漁ナク後五時三十分寶島ニ向フ	前六時四十分漁場着後五時四十分マデ操業シ同	所ニ漂泊	後一時〇五分鹿兒島港發盲曾根ニ向フ	前五時四十分泊地發沖曾根ニ操業シ後四時三十分鹿兒島港碇泊	前六時二十十分泊地發寶島南東漁場ニ操業シ後七時十分寶島假泊	前五時四十十分泊地發沖曾根ニ操業シ後四時三十分鹿兒島港碇泊	前五時四十十分泊地發沖曾根ニ操業シ後四時三十分鹿兒島港碇泊
前五時十分中島發サンゴ曾根ニ操業シタルモ潮天ト潮流急ニシテ漁ナク後五時三十分寶島ニ向フ	一回操業シタルモ荒天ト潮流急ニシテ漁獲ナク操業不能ニ付中ノ島ニ向ヒ後四時清十三日荒天ノタメ同所休泊						

同 二 十 五 日	同 二 十 四 日	同 二 十 三 日	同 二 十 二 日	同 十九 日	同 十八 日	同 十七 日	同 十六 日	同 十五 日
雨 N 5	曇 NNE 4	晴 NW 3	晴 NW 3	曇 SSE 2	晴 SE 1	曇 NW 3	曇 NW 5	晴 SSE 4
(イ) 同	(イ) 東寶 同	(ハ) 盲 三島 涙南	(イ) 東寶 曾 三島 涙南	(ホ) 寶島南一涙 曾根	(ロ) 沖 曾 根	(ホ) 寶島南一涙 曾根	(ホ) 寶島南一涙 曾根	(イ) 寶島南一涙 涙南
至 自 前 五、 七、 翌 五 五	至 自 前 六、 七、 三、 四、 五	至 自 後 三、 二、 三	至 自 前 五、 六、 四、 五	至 自 前 六、 七、 三	至 自 前 六、 七、 三	至 自 前 五、 六、 四、 五	至 自 前 七、 八、 五	至 自 前 五、 七、 三
23	30	4	28	35	20	15	31	
21.6	21.8	22.0	22.4	22.5	22.6	22.5	22.6	
WSW 緩	SSW 緩	ENE 急	NE 緩	NNE 緩	SE 緩	SW 急	NW 急	
80-100	80-100		90-100	90-100	80	90-100	80-100	
サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ
ホシマ ロツ タタ タイ	ホ青 シマ カロツ ザダ メイ	ホア ナ カバ バタ タライ	ホシ マ シ タ メ	ホ雜 ロツ タタ ザ メタ	ホ青 シ シ タ メ	ホマ ツ タ イ メタ	ホ白 シカ タダ タメ	ホマ ツ タ イ メタ
二二八 五一五 一〇〇	三二二 三四四 一五二	一五 一三 四七	二二 二二 一七	三二 三一 七三	一 一 三七	二 一 七七	三 四 四四 一〇八	二 一 七七
前七時泊地發寶島南東漁場ニ操業ノ上後六時三 十五分寶島假泊	前四時三十分寶島南東漁場着操業ノ上後十時寶 島ニ假泊	後三時鹿兒島港發盲曾根ニ向フ	前六時泊地發寶島南一涙ニ操業シ後五時鹿兒 島ニ向フ	前五時十分寶島泊地發寶島南一涙ニ操業シ後六 時五十分寶島假泊	前五時五十五分泊地發オガソ曾根ニ操業シ後七 時五十分寶島假泊	前六時三十分泊地發寶島南東漁場ニ操業シ後七 時宝島假泊	前七時二十五分ヨリ寶島南東漁場ニ操業シ後七 時寶島假泊	三七 三 三

同 十三日	同 十二日	同 日	同 十一日	同 十日	同 九日	同 一日	同 一月七日	同 二十八日	同 二十六日
暴 NW 4	晴 S 1	晴 SE 2	晴 SE 2	暴 NNW 4	暴 NNW 4	暴 SW 3	雨 SW 3	晴 N 4	暴 N 3
(ヌ)小東四島、南五里々 寶、島、南、二里、島、新曾根	(リ)小西南西寶、二里、島	(チ)惡石、同	(ト)惡石、島、五里、南	同	同	同	同	同	同
自前 九、七、 八、三	自後 七、七、 八、三	自後 七、七、 八、三	至前 二、一、 〇、〇	至前 四、九、 〇、〇	至前 二、九、 〇、〇	至前 二、九、 〇、〇	至前 六、八、 〇、〇	至前 六、七、 〇、〇	至前 六、六、 〇、〇
4	29	11	3	13	6		26		31
21.0	21.5	21.6	21.7	21.0	21.5		21.7		21.8
SW 級	W 級	NW 級	NW 級	E 級	N 急	S 級	WSW 級		
70—90	80—90	80—90	160	80	70	80—100	80—100		
サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ
ホマツタ タイ	アカツバ バタ	タマシマ ライメラ	ホシタアマ タイメライ	ホベント タタ	タマシマ 魚メイイ	ナシ	ホシマツ タダイ	ホシザメ	ホシタマ タダイメ

三五一一二五六〇全二四五一九一二五九三六二二二五六四一三八二五五

六四二

前六時 小東島 三十分 三十分 泊地發 北西一里 操業後 五時 三十分 同島	前七時 二十分 二十分 泊地發 小東島 西南西一 五里ヨリ 操業後 七時 二十分钟 小東島 假泊	前六時 二十分 泊地發 同島 南七里ノ 礁ニ操 業後 七時 四十分钟 小東島 假泊ス	前八時 二十分钟 泊地發 同所 南西二里 ニ操業 シ後四 時四十 分钟 惡石島 南ニ假泊 ス	前六時 三十五分 泊地發 惡石島 ニ向ヒ 同八時 二十四 十分 識訪瀬 島ニ假泊	後一時〇五 分鹿兒島港 發荒天ノ爲 川尻ニ休泊 シ後二時四 十分惡石 島假泊	前七時泊 地發寶島 南東漁場 ニ操業ノ上 後六時鹿 兒島ニ向ヒ 二十九日後 八時十分歸 着漁獲物賣 却昭和七年 一月六日迄 鹿兒島港碇泊	前六時二十分 泊地發寶島 南東漁場ニ 操業ノ上後 七時三十分 寶島假泊 セ前九時〇五 分同所發後 十一時四十 分惡石島假 泊	前六時二十分 泊地發惡石 島ニ向ヒ同八 時二十四十分 識訪瀬島ニ 假泊	前六時二十分 泊地發惡石 島ニ向ヒ同八 時二十四十分 識訪瀬島ニ 假泊
---	---	--	---	---	--	---	--	--	--

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二 十 日	十七 日	十六 日	日	日	十五 日	日	十四 日	日	日	日	日
疊 N 1	NW 4	WNW 4	同	同	NW 2	同	NNE 3	同	同	同	同
(オ) 一小 、寶 五島 北 涅西	(オ) 西小 寶島 五 涅島	(リ) 西小 寶島 二、 涅南	(ワ) 一寶 五島 涅西	(ネ) 一寶 島 涅南	(ア) 一寶 五島 涅西	(オ) 一小 寶島 五島 北 涅西	(オ) 一小 寶島 五島 北 涅西	(ル) 東小 寶島 三東島 涅南			
至自前 後二〇、 〇〇	至自前 後二八、 〇〇	至自後 七二、 〇〇	至自後 七一、 〇〇	至自前 前二一、 〇〇	至自後 六一、 〇〇	至自後 六一、 〇〇	至自後 五八、 〇〇	至自後 五八、 〇〇	至自後 四九、 〇〇	至自後 四九、 〇〇	至自前 前〇九、 〇〇
10	11	13	6	8	15	10	5	7			
21.1	21.3	21.1	21.2	21.2	21.3	21.3	21.1	21.0			
N 急	N 急	N 緩	S 緩	SE 緩	同	N 急	E 急	SW 急			
80-100	80	80-90	80-90	80	90-90	80-100	80-90	80-90			
サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ	サ バ			
アマ ツタ タライ	アゲタシマ ツバタタ ライメイイ	ホタシマ バタタ タメイイ	タシマ バタタ タメイイ	シマ ロツタ メイイ	シマ ロツタ メイイ	シタホ マツタ メイタ	マツタ タメイ	ホマ ツタ タイ	ホアマ ツタ タライ		
一七四三	一一五八	六六四二	三	四四五	二八	一二四一九	五	六三	七八	七〇三	
着二三 =前 十分 分分 後時 口同 良部 假泊 泊島 二十 湊二 日同 所變 島	前八時 泊地發 鹿兒島 十九日 永良部 假泊 泊島 二十 湊二 日同 所變 島	時泊地發 小寶島 四時四 時四十 分不漁 付正分 入日佐 六時前 六時時	二十分泊 地發小寶 島假泊 鹿兒島 四十五分 港泊 港泊 鹿兒島 港發後 歸着漁獲 物賣却	泊地發 小寶島西 二泊泊 鹿兒島 港歸着 漁獲物 賣却	四十分泊 地發寶島 南一涅同 島西一、五 涅泊泊	前六時四 十分泊地發 寶島南一涅 同島西一、五 涅泊泊	前七時泊 地發小寶島 北西一、五 涅及寶島西 一、五				
前八時 泊地發 鹿兒島 十九日 永良部 假泊 泊島 二十 湊二 日同 所變 島	時泊地發 小寶島 四時四 時四十 分不漁 付正分 入日佐 六時前 六時時	二十分泊 地發小寶 島假泊 鹿兒島 四十五分 港泊 港泊 鹿兒島 港發後 歸着漁獲 物賣却	泊地發 小寶島西 二泊泊 鹿兒島 港歸着 漁獲物 賣却	四十分泊 地發寶島 南一涅同 島西一、五 涅泊泊	前六時四 十分泊地發 寶島南一涅 同島西一、五 涅泊泊	前七時泊 地發小寶島 北西一、五 涅及寶島西 一、五					

合 計	同 十四日	同 十二日	同 八日
	西南 SW 4	西北 NW 1	南 SW 3
	(ヨ) 同	、ミ、 南喜 七界 埋鳥	カサ ンドン岩
	至後前 一、八〇〇	至自前 七、八〇〇	至自前 六、七〇〇
761 鉢	6	15	17
	21.5	21.8	21.0
	E 緩	SW 緩	NE 急
	240	240	90 - 100
	サバ	サバ	サバ
稚ホタタベ青ホアシマ シイバツマカラツ ザイバタタバタタ メメメイイタラライ	ベンタイ ベンタイ ベンタイ	ベンタイ ベンタイ ベンタイ	アマ カツ カハタ ラライ
二三二六五四三四六二三三 四三二六五四三四六二三三	三	一〇六	六二一三
三九、四〇			
前零時四十五分大熊發喜界島南七浬ニ操業シ同所ニ漂泊 前八時ヨリ喜界島南七浬ニ操業シ荒天トナリ 熊ニ向ヒ後九時四十分着十五日前十一時十分同大所發鹿兒島ニ向ヒ荒天ノ爲途中惡石及口ノ島ニ 避泊上十日鹿兒島港歸着漁獲物賣却本航海ニ 以テノ上十八日鹿兒島港歸着漁獲物賣却本航海ニ 終了ス	前三時大熊發喜界島南七浬ニ操業シ後十一時四十分大熊假泊第天ノ爲十二日マデ同所休泊		

129

130

131

31

①

②

③

橫當島

0.0



宝島
小島
要石島
誠訪瀬島
中島
駄蛇島

黑島

口永良部島

屋久島

種子島

喜界島

光洋丸顧魚延繩漁業
試驗調查圖
鹿兒島縣水產試驗場

30

29

28

定置漁業漁場調査

趣旨

本縣に於ける定置漁業は鱈釣、鮪延繩漁業其の他と共に重要漁業の一にして有明灣及川邊郡薩摩郡甑島沿岸に年々十餘箇所の漁場經營さるも未だ細密に漁場を調査したるものなく海底の状態等尙詳かならざるものあるを以て漁場一帯の水深、底質を測量し其結果を漁場圖に作成し漁網敷設上の参考に供せんとし前年度より之に着手し肝屬郡内之浦の大部分を終了し本年は其の残り一部と全郡高山村及川邊郡片浦薩摩郡甑島の漁場に付調査せり。

調査漁場及調査月日

海藏 肝屬郡内之浦村
飲ヶ谷 東風泊 全郡 高山村

七月二日より七月十日まで

中網 川邊郡笠砂村片浦

九月十六日より九月二十四日まで

黒瀬 薩摩郡上甑村中甑

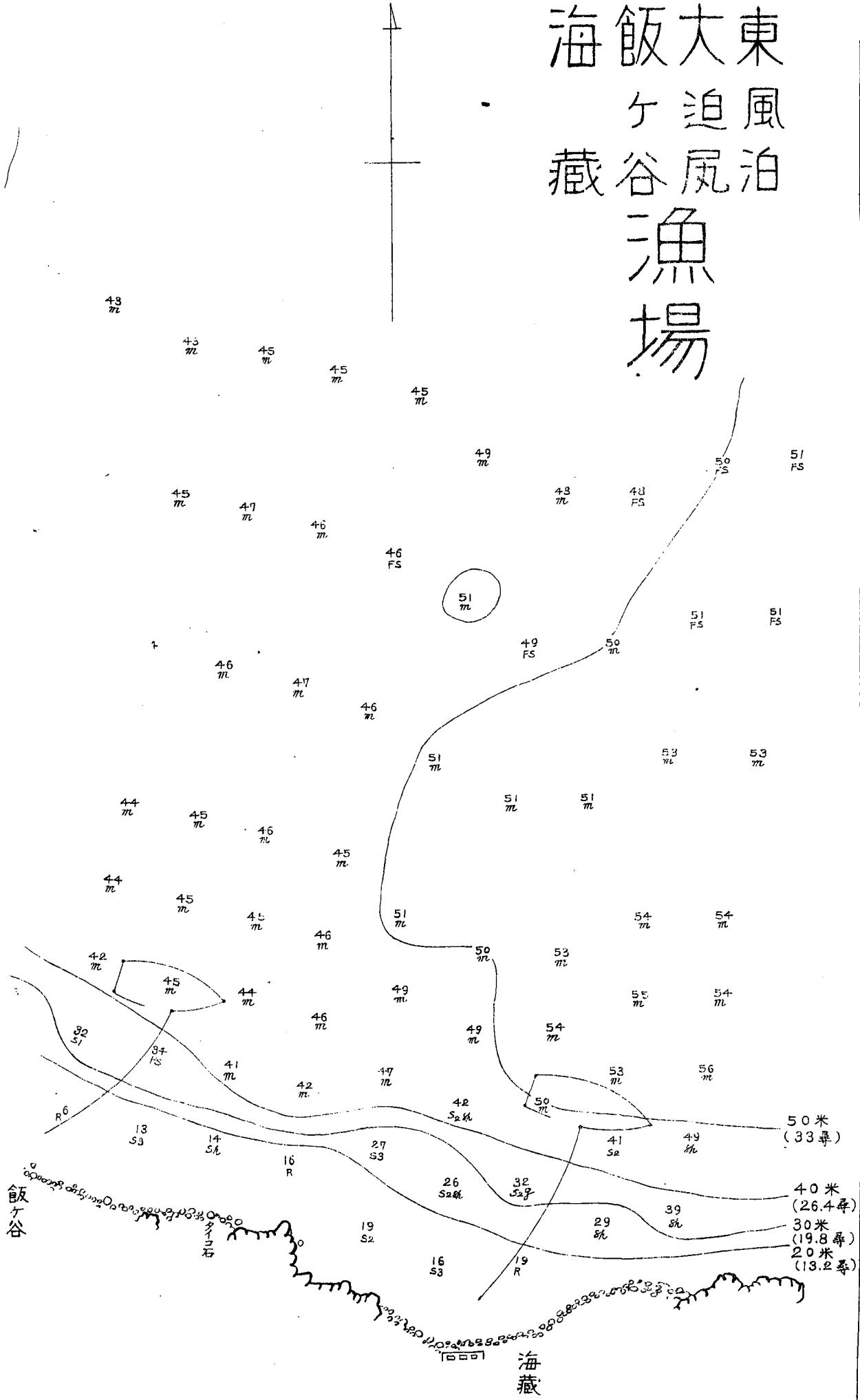
全郡 全村

吹瀬辨慶 尾全郡下甑村瀬尾
全郡 全村 蘭牟田

十月十九日より十一月十九日まで

調査の結果による漁場圖次の如し

東大飯海
迫風谷藏
泊漁場

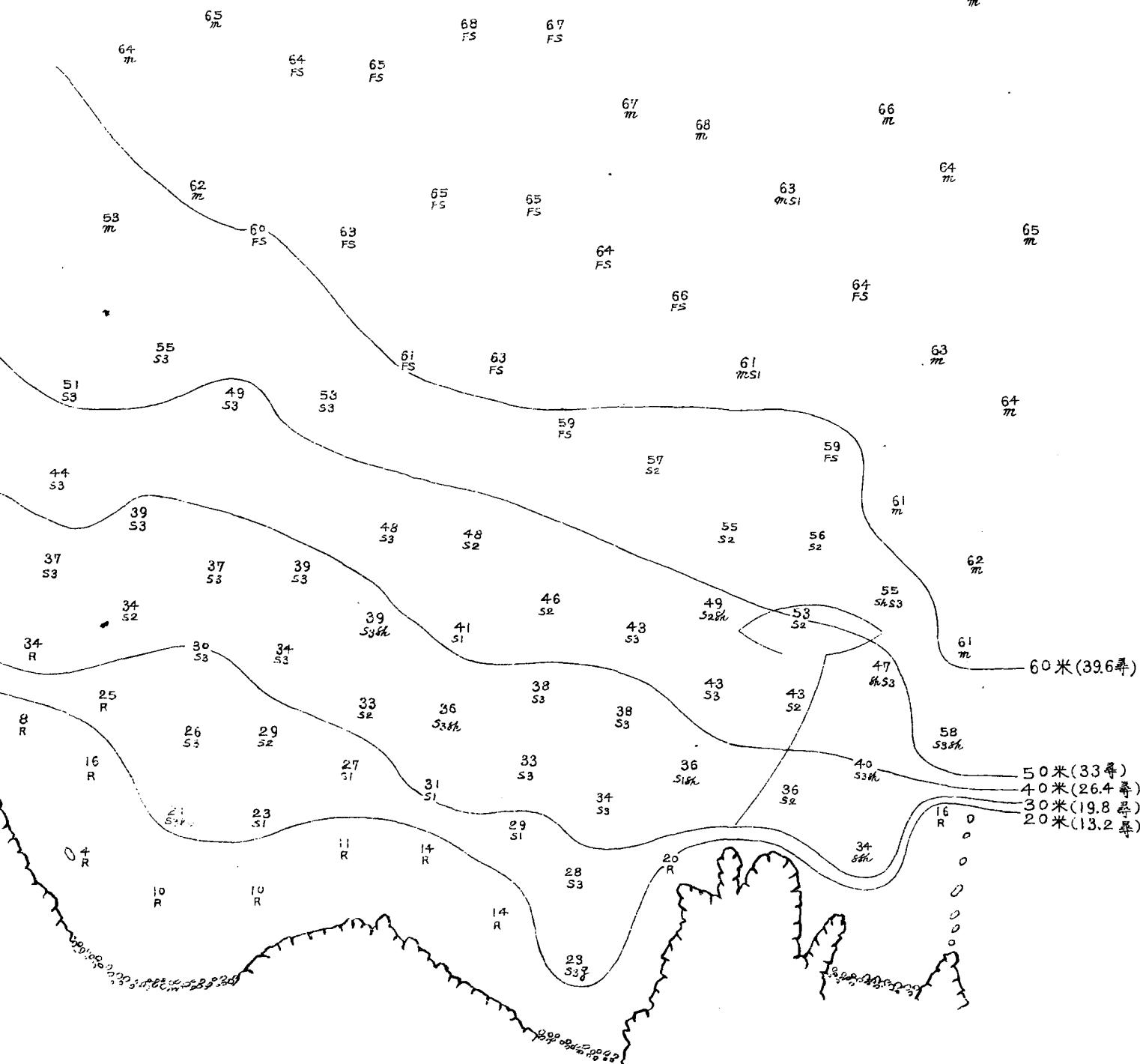


濱之漁田場

一 二 千 分 一



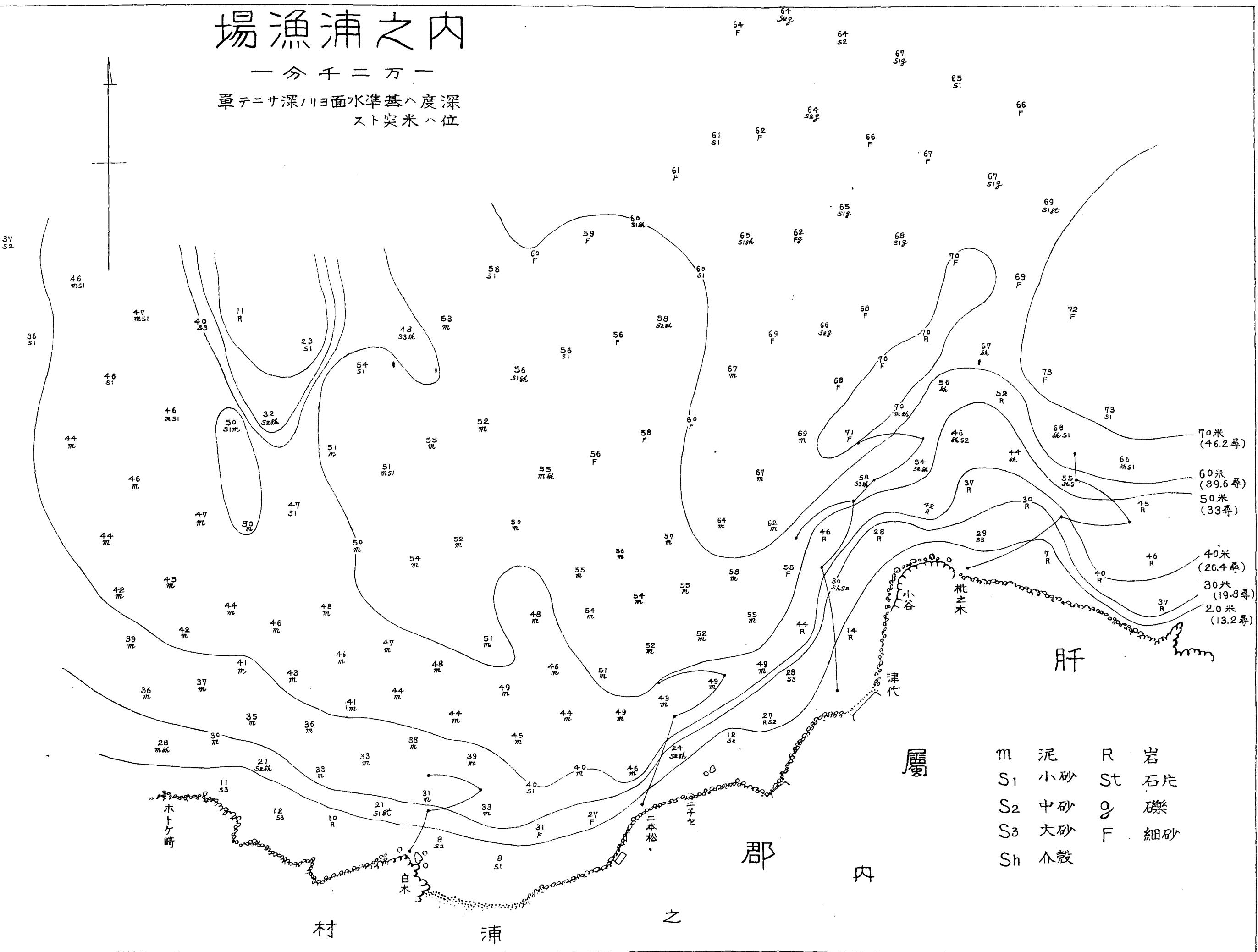
m



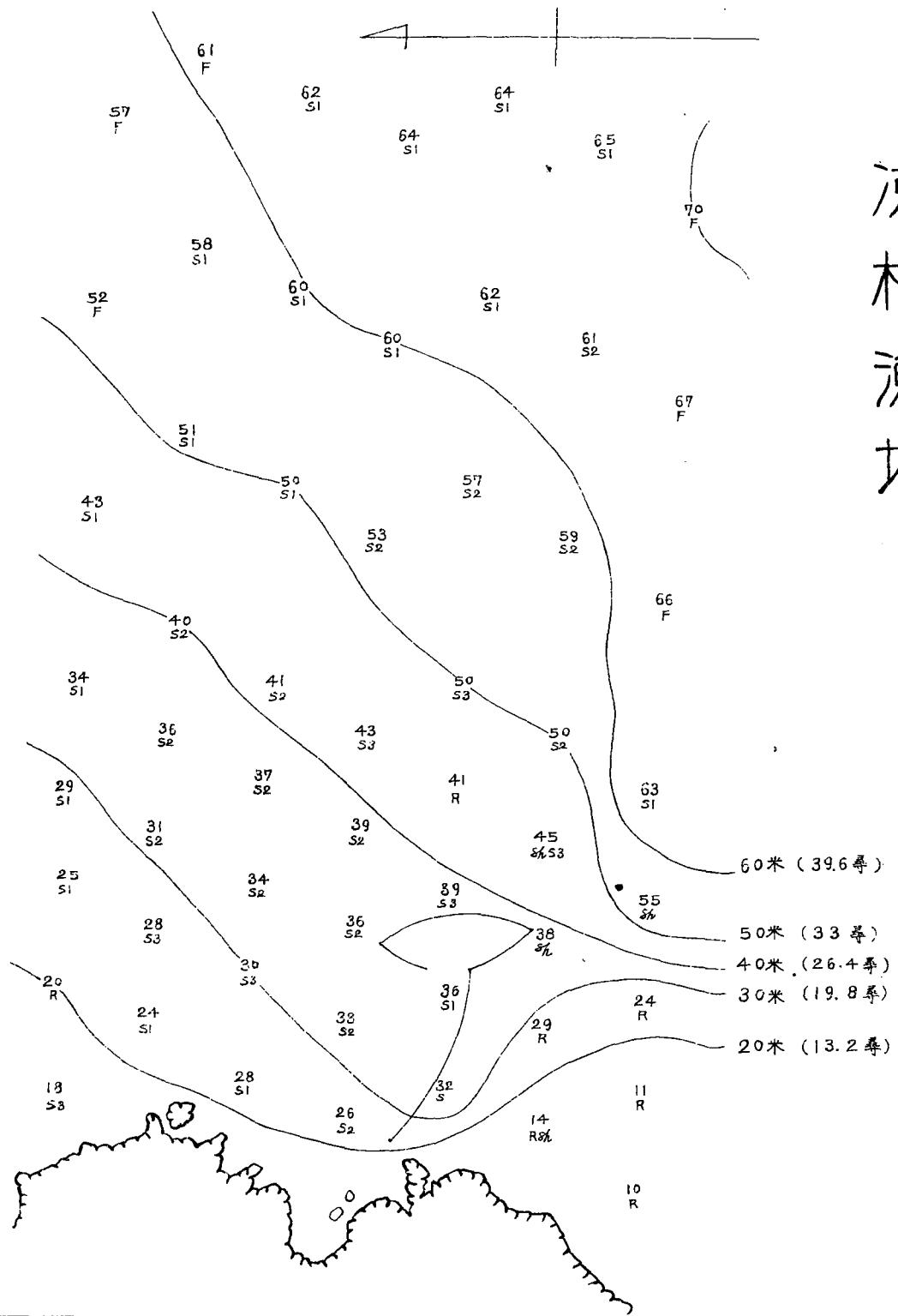
内浦漁場

一万二千分之一

水準基度八度深
米突八位



涼松漁場



高崎漁場

一万二千分一

深度ハ基準水面ヨリノ深トス
單位ハ米突ヲ用フ

m
S₁
S₂
S₃
S_n
R
g

泥
小砂
中砂
大砂
殻岩
礫



黑瀨漁場

一万二千分之一

平

上

薩

村

島

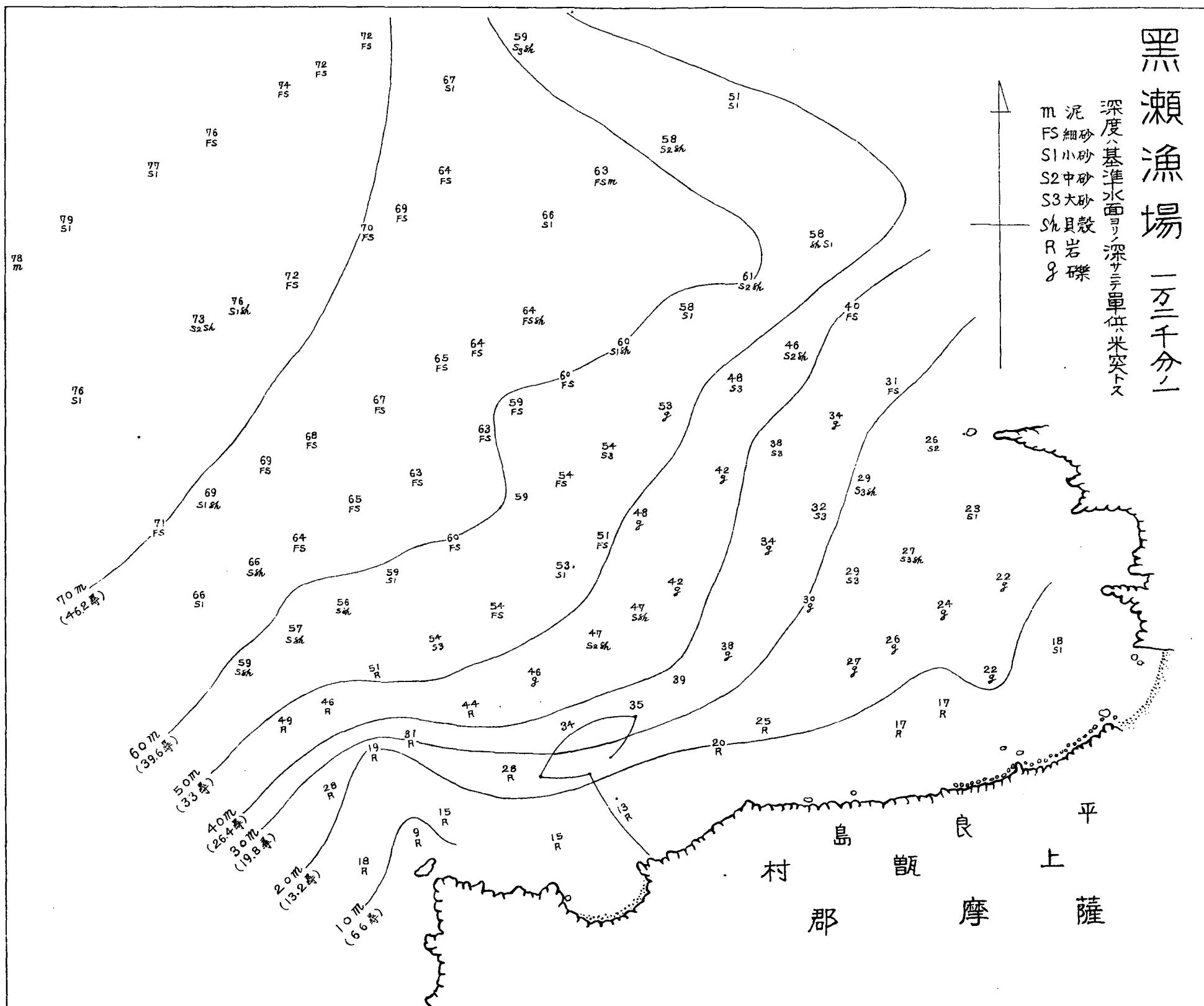
觀

摩

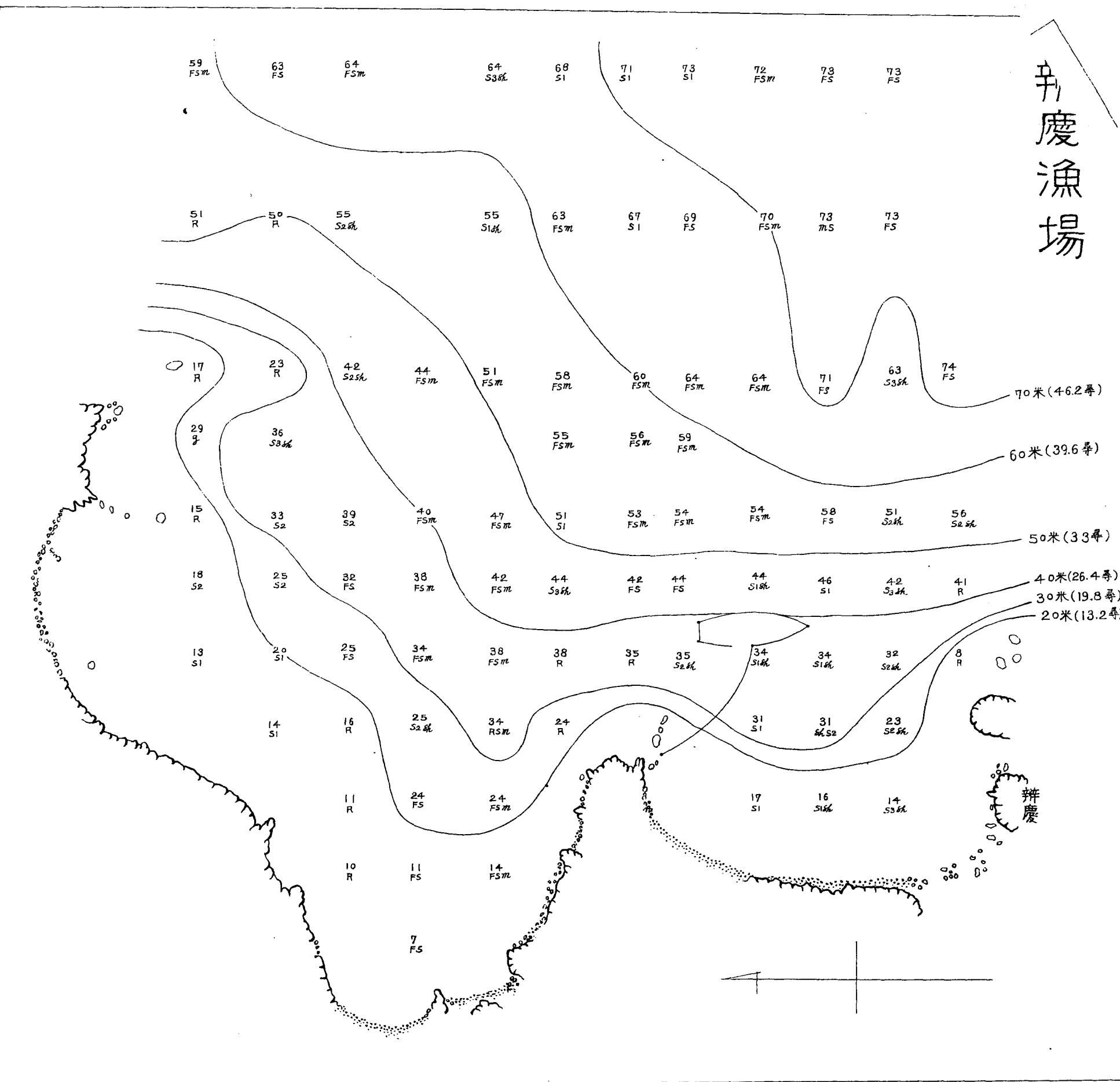
郡

深度六基準水面ヨリノ深サニテ単供米突トス

m 泥
FS 細砂
S1 小砂
S2 中砂
S3 大砂
Sh 貝殻
R 岩
g 碎



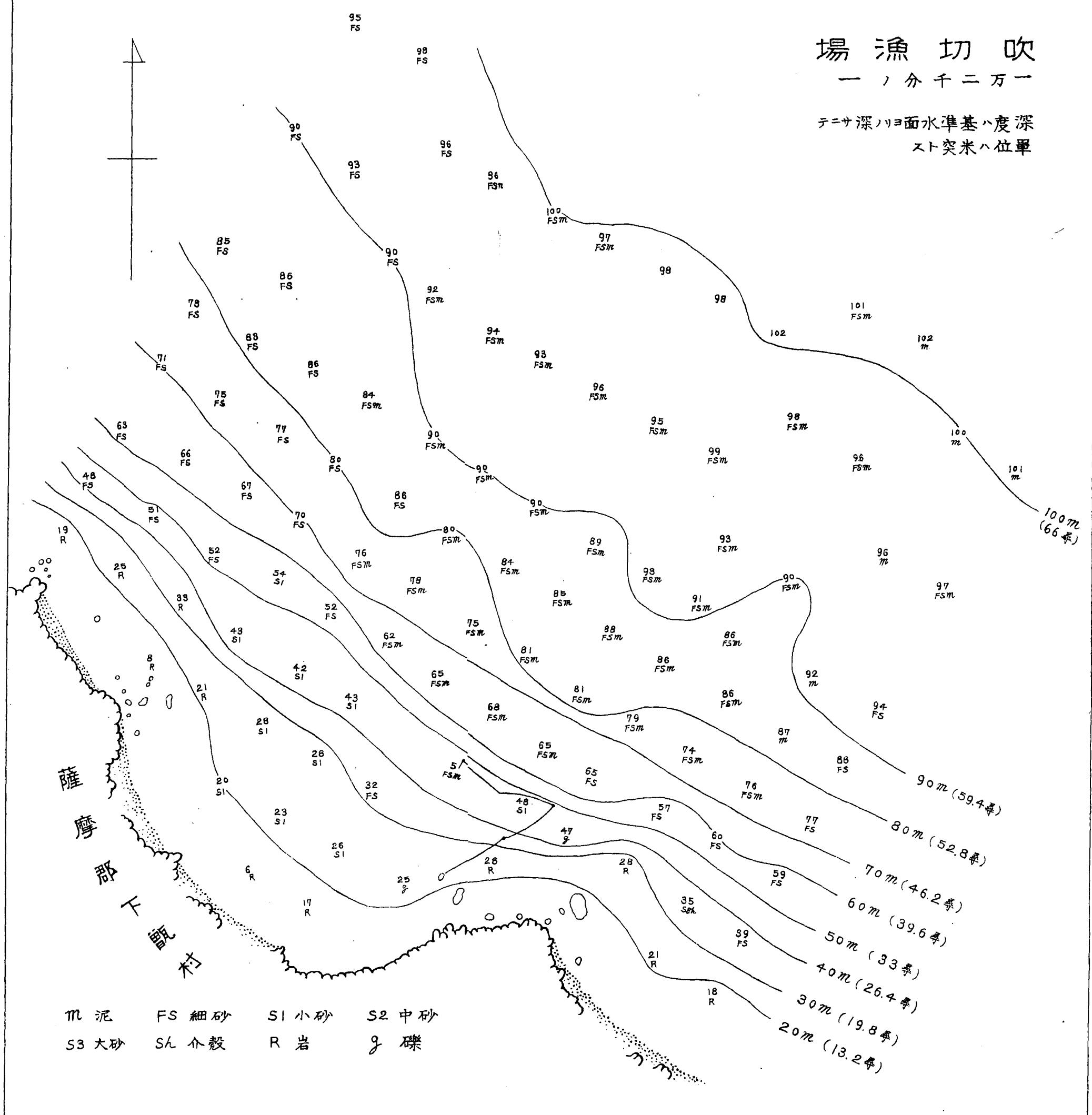
赤慶漁場

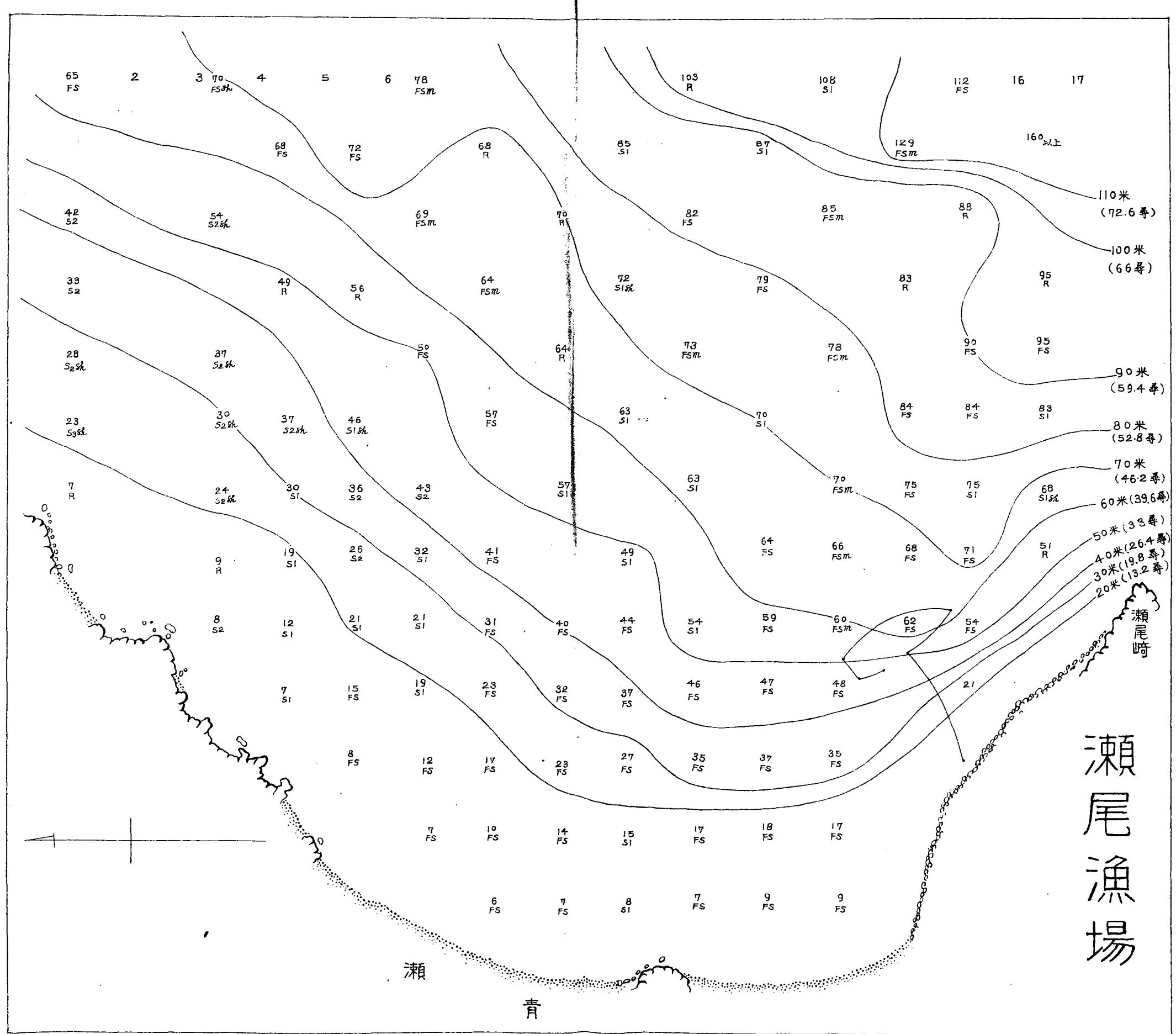


吹 力 渔 場

一 万二千分之一

テニサ深ノヨ面水準基ハ度深
スト突米ハ位單





製造部

鰹節製造試験及傳習

趣旨 本試験及傳習は本縣水產製品中の王座を占むる鰹節の改良發達を圖らる爲め連年繼續施行せしものにして舊來の薩摩節製法の短を捨て駿遠節製法の長所を採りて市場の要求に適應する製品の產出に努め商品價の向上を圖れり、而して製造工程中重要な部分に就ては適宜試験を施行し其結果に基き製品の改良に資し斯業に貢献する所多く本縣産製品も今や市場に於て駿遠節に拮抗し殆ど遜色なきに至り聲價頗に昂りたり而して之が根底を期せむには從業者の技術の向上及熟達に待つもの多きを以て本年も主として技術者の養成に意を注ぎたり。

経過及成績

靜岡縣燒津町より實業教師二名を傭入れ製造と共に實技傳習の任に當らしめ川邊郡枕崎町本場附屬鰹節製造場に男子十二名

女子一名計十三名の傳習生を收容し昭和六年四月五日より七月末日迄駿遠節の製法に則りて製造をなし其の製法技術を傳習せり。而して製造傳習に要する製造原料の豊富ならしめ且改良製造の有利なるを明かならしめむ爲めに鰹節製造業者立石常次郎氏と共同して施行し製了品は右共同者に交附して適當時期に販賣せしむる事とせり斯くして傳習生は何れも所定の製造工程を習得せしに依り各々修了証書を授與せり傳習終了者左の如し

上木原 鈴 盛	栗 野 十 一	神 園 國 盛	宮 下 伊 勢 盛	有 村 義 內	松 尾 イサエ
菊 永 勸	茶 屋 道 德 藏	上木原 直 義	宮 下 春 吉	柳 田 秋 義	小 港 甚 內
尙 傳習終了者は民間製造場に斡旋して左記の如く就職せしめたり。					
岡 田 正 司 氏 製 造 場	三 名	五 名			
中 村 末 吉 氏 製 造 場					
立 石 常 次 郎 氏 製 造 場	三 名				
新 屋 敷 泰 榮 氏 製 造 場	二 名				

南洋產鰹節製造豫察試驗

本場指導船照洋丸が南洋漁場探險の節漁獲せし鰹の中五尾を供試原料とし製法は從來本場が採り來れる製造法に則りて本節に試製せり、製品

は大体近海産鰹節に比し体形瘠身にして捻曲の傾あり、三番徴後箱に收めて其まゝ保管せし爲め徴付状態佳良とは認められざるも肌合及折口の色澤は頗る良好にして香味又佳なり今其製造工程經過及歩留を記すれば次の如し

月	日	要項	雄節	雌節	合計	生原歩留	備考
昭和六年 五月二十一日 ク		原 (五尾分) 處理後重量	一・七一〇匁	一・四三〇匁	四・八〇〇匁	○・六五六一五	
		第一番火後重量	一・一一〇匁	八五〇匁	一・九七〇匁	○・四〇四一六	
六月十日		焙干終了後重量	五四〇匁	四〇〇匁	九四〇匁	○・一九五八三	
七月三十一日		三番徴後重量			七二〇匁	十一番火後 ○・一五〇〇〇	

右表に依り三番徴後の製品歩留平均一割八分に比較せば三分の歩留減差あり。

今回試験せし南洋鰹の供試材料は僅か五尾に過ぎずしてこの結果を以て南洋鰹の大体を論斷するは勿論早計にして更に回を重ねて試験するを要すべきも偶々今回の供試原料は一見鰹鰹の觀ありて此れが爲め比較的歩留の少き結果となりしものならんか、南洋産及近海産の鰹節に就き化學的に相違を検せむ爲め鹿児島高等農林學校化學部に其の分析を依頼せり比較材料の近海産鰹節は南洋産と同日及同様の工程に依り製造せしものにして分析の結果は左の如し

鰹節分析表

(昭和六年)

種別	水分	灰分	粗脂肪	粗蛋白	純蛋白	非蛋白 溶性N	全N100 = 粗スル水 溶性N	全N100 = 粗スル不 溶性N	全N100 = スル10%食 物水溶性N	全N100 = スル10%食 物水溶性N	全N 量
南洋鰹 (A)(雌)(左)	15,700	3,230	0,935	78,363	72,989	5,374	15,966	84,034	16,715	83,285	12,378
南洋鰹 (B)(雄)(右)	15,481	4,159	0,858	77,331	72,727	4,608	15,009	84,971	17,016	82,984	12,373
南洋鰹 (C)(雌)(左)	15,602	3,215	0,876	77,522	73,687	3,835	15,478	84,522	15,611	84,389	12,403

南洋産 (D)(雌)(右)	15,640	2,919	0,793	77,912	73,615	4,297	15,195	84,805	15,481	84,519	12,466
近海産 (イ)(雄)(左)	15,361	3,519	1,743	77,111	71,649	5,462	17,887	82,113	18,111	81,889	12,335
近海産 (ロ)(雄)(右)	15,207	3,317	1,006	77,225	72,013	5,212	16,165	83,835	17,474	82,526	12,356
近海産 (ハ)(雌)(左)	15,265	3,246	1,969	77,981	71,808	6,173	17,088	82,912	17,178	82,822	12,477
近海産 (=)(雌)(右)	15,533	3,420	1,731	78,156	72,132	6,024	15,396	84,604	16,538	85,462	12,505

固形物中

種別	灰分	粗脂肪	粗蛋白	純蛋白	非蛋白	
南洋産 雄(左)	3,832	1,109	92,957	86,583	6,374	(A)
南洋産 雄(右)	4,920	1,015	91,495	86,043	5,452	(B)
南洋産 雌(左)	3,809	1,038	91,852	87,311	4,541	(C)
南洋産 雌(右)	3,460	0,940	92,356	87,263	5,093	(D)
近海産 雄(左)	4,193	2,060	91,105	84,653	6,452	(1)
近海産 雄(右)	3,912	1,187	91,074	84,928	6,146	(ロ)
近海産 雌(左)	3,831	2,324	92,029	84,044	7,285	(ハ)
近海産 雌(右)	4,049	2,049	92,528	85,397	7,131	(=)

前表に依り見ゆ時は南洋産鱗節は近海産鱗節に比し鱗節鱗節共に粗脂肪量及水溶性窒素量並に10%含鹽水溶性窒素量の少きを見る凡て魚肉の味は肉自身の含有する脂肪量と並行するのみを以て近海産鱗節は南洋産鱗節に比し呈味状態多かるべく水溶性窒素量及10%含鹽水溶性窒素量の多少は即ち可溶性呈味成分の多少の有無を意味するものと謂ふが此を以て南洋産鱗節は近海産鱗節よりの呈味状態淡白なるべくい可溶性呈味成分の少くい。

鰹鹽辛製造試験

趣旨 本縣は全國に於ける屈指の鰹漁獲地にして其鰹は殆ど全部節に製造せられ臍臍の如きは從來肥料又は動物飼料に供せられ食料とせらるゝは僅に一部に過ぎざるを以て之が利用方法を試験せむとす。

経過及成績 五月三日及六月十五日の二回に亘り大鰹及中鰹の内臍にして鮮度高く色澤良好のものを擗び胃腸幽門垂は切開して粘液汚物を除去し肝臍と共に母氏四度の鹽水に浸して三十分放置し然る後手又たわし等を以て洗ひ脂肪分及汚物を洗除す斯くして更に母氏四度の鹽水に前同様の方法に依り洗ふこと六回に及び洗水潤滑せざるに至り取上げ水切りをなす處理せし原料に對し二割七分量の内地一等鹽を施し四斗樽に收め二週間は朝晝晚三回宛櫂入をなし充分に攪拌し後二週間は朝晝二回爾後日に一回宛櫂入をなせり其間施鹽後三週間にして水分多量に浮上せしに依り其の水分を除去せり歩留は。

第一回は原料重量一〇〇、三三、〇匁 濃度後重量三九、〇〇〇匁 (原料ニ對シ)

第二回は原料重量 五五、三〇〇匁 濃度後重量二一、〇五〇匁 (原料ニ對シ)

用鹽量 一〇、四〇〇匁 (原料ニ對シ)

用鹽量 五、六八〇匁 (原料ニ對シ)

斯くして八月上旬鹿児島實驗所に搬送して醸熟の完成を計り甘味添加の爲め十二月二日細切せし醸鹽辛四斗六升に對し米糀六升九合を其の儘混入して攪拌し毎日櫂入れをなせり五日を経て已に糀は柔軟となり舌觸り良く甘味を呈するに至れり鹽辛更に香味添加の爲め「ローレル」を入れたり。

其の方法は前述製せし鹽辛を小樽に詰むる際壠底に「ローレル」半枚分を敷き鹽辛一合(六十匁)を詰め上に「ローレル」半枚分を置き王冠式蓋にて密封せり、右の如く試製せるものを十二月十二日より三日間本縣水產會主催の水產食料品評即賣會に出陣して即賣せしに好評を博し相當の成果を收めたり。

生産費に就て見るに四斗樽一本分(正味三斗二升)を標準として其の生産費を探れば左の如し

種 目	數 量	單 價	金 額
原 料	五五、〇〇〇匁	〇六〇	三、三〇〇
樽	一 個	二、〇〇〇	
食 鹽	一、五呎	一、七〇〇	二、五五〇
人 夫	六 人	、八〇〇	四、八〇〇

運 貨
米 糜
四、八升
一〇〇
、九六〇
、九〇〇

一四、五一〇（製品三斗五升）一升ニ對シ〇四一四六

鰯修製造試驗

趣旨 本縣に多量に漁獲せらるゝ鰯及小鱈を利用し之が價値の増進を圖らむとするにあり。

經過及成績

一、鰯 櫻 乾

頭内臟脊骨を除去し清水にて充分洗滌し醤油一升につき更自糖一五〇匁の割合に調味せる液に二時間乃至五時間浸漬し取出して簀に並べ肉膚に胡麻を散布し日乾して製了す昭和六年十月七日より翌年一月二十九日迄鰯原料二二七貫四二〇匁を使用し製品五二貫五〇〇匁を得、之を鹿兒島市商店、東京、都城、熊本市等の市場並に縣水產會主催即賣品評會等に於て賣却したり而して其の收支は原料代十九圓十六錢調味料代十一圓七十七錢人夫賃十圓三十六錢運賃八圓五錢計四十四圓六十三錢の支出に對し賣上高五十二圓七十二錢八圓九錢の收賣となれり。

二、鰯 櫻 乾

製法は鰯櫻干と同様にして十月五日より十二月六日に至る間に於て原料三六貫五〇〇匁を使用し製品八貫〇五〇匁生産したり之を鹿兒島市商店及縣水產會即賣品評會等に於て賣却し十一圓十三錢を得たり、而して之を要したる支出は原料代四圓六十九錢調味料代三圓七十四錢人夫賃一圓七十七錢運賃三十錢計十圓四十三錢にして收益となる。

三、鰯 丸 乾

原料を清水にて洗滌し原料四貫匁につき鹽約二升の割合にて一時間撒鹽を行ふ適當に鹽味浸入したる時串刺とす別に二個の樽に水を入れ最初の樽にて假洗滌を行ひ次に他の樽にて充分洗滌す洗滌せる鰯は乾臺にて日乾し完了す十月五日より十二月六日迄原料四貫二三〇匁を使用し製品一五一貫一三〇匁を得たり、之を鹿兒島市、阿久根町、大阪市、水俣町の商人及都城、久留米市、奈良市の各市場縣水產會主催即賣品評會に於て賣却賣上高八十三圓九十八錢にして之に要したる支出は原料代四十圓七十九錢鹽代十五圓二十八錢人夫賃十三圓九錢運賃等十八圓六十錢計八十七圓八十錢にして差引三圓八十二錢の欠損となりたり。

四、鰯眞砂乾

鰯標乾と同様の方法に依り處理し頭、骨、内臓を除去し鹽一五〇匁砂糖三〇〇匁水一斗五升の割合にて調合せる液に四時間浸漬し日乾製す。原料は小鰯四〇貫匁を使用し製品八貫匁を得之れを縣水產會主催の水產食料品品評即賣會に出陳し試賣せしに相等の好評を博したり。

五、鰯香味乾

大羽鰯の利用の一端として本試験を施行せり、即ち焙炙に依り油脂分を或る程度迄除去し然る後未廣乾の如く調味を施して干製し香味を添はしめ貯藏に堪へ得る製品を試驗せむとせしものにして二月十日新鮮なる大羽鰯一斗を清水にて洗滌し香開となし鹽一升にて二時間假漬したる後一日日乾し炭火上にて軽く焼き醤油一升に更目糖一五〇匁にて調合せる液に一晝夜浸漬し日乾製す。熊本市朝市場に試賣したるに、壹貫匁五十錢にて仕切られたり製造せるは僅か一回にして供試原料も少く從つて廣く試賣品評を求め得ざりしが本試験結果より察するに將來本品の製造は有望なるものと思考せらる。

養殖海苔養殖試験部

淺草海苔養殖試験

趣旨 本縣下河川河口には所々にマルバアマノリの着生を見、淺草海苔養殖の適地と認めらるる場所相當あるも未だ全く利用せられざるを以て本年より之が利用を圖らんとし先づ出水郡米之津町荒崎川、川口を選び附着状況並に成育條件に付き試験調査を爲せり。

経過及成績 洪立の方法に依り洪材料は荒崎地方の俗に「ニガマ」と稱する笹竹を主とし其他櫻粗朶孟宗竹を混じ使用せり洪立個所は圖上示す十ヶ所として總洪數約一万本を十月上旬に建込みたり。

十一月下旬にはG・H・Iを除く外全部胞子着生の斑點を見早期のものは癪狀の空起を見る沖建の洪程胞子の附着良好に見受らるニガマ最も着生良好にて櫻第二孟宗第三位の順位を示す。

一月中旬には着生海苔最長は三寸に達するも尙胞子の着生時季にあるものあり川口奥部（G・H）の洪は今や胞子着生時季と見られ大部分が班點狀態を示す未だ漉くに至らざるも試験的に漉き上げを爲すに香氣高く質柔く風味良好なりき。

一月下旬に至り附着海苔は漸く發育し川口奥部（G・H）を除く大部分が漉上時季となれり最長なるは一尺余りのものあり大部分四寸前後を示せり一般に着生密に過ぎ成長悪しく尙肥料分の供給不足の爲め葉体薄く且体色茶褐味を帶び黒紫色を呈せず但し洪の下部に附着し常に水中に在り割合に疎に附着のものは色澤生長共に良好なりき川口奥部の洪には漸次アヲサアヲノリの着生多く緑色の箇所所々に見受らる。

三月上旬に於て川口奥部にあるもの本月に入り漸く二三寸に成長せるも色澤風味共に不良なり、大部分取盡したる傾向なるも取残されたるものは葉縁流れ始めたり。

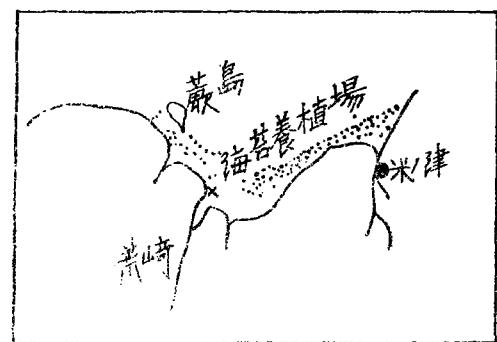
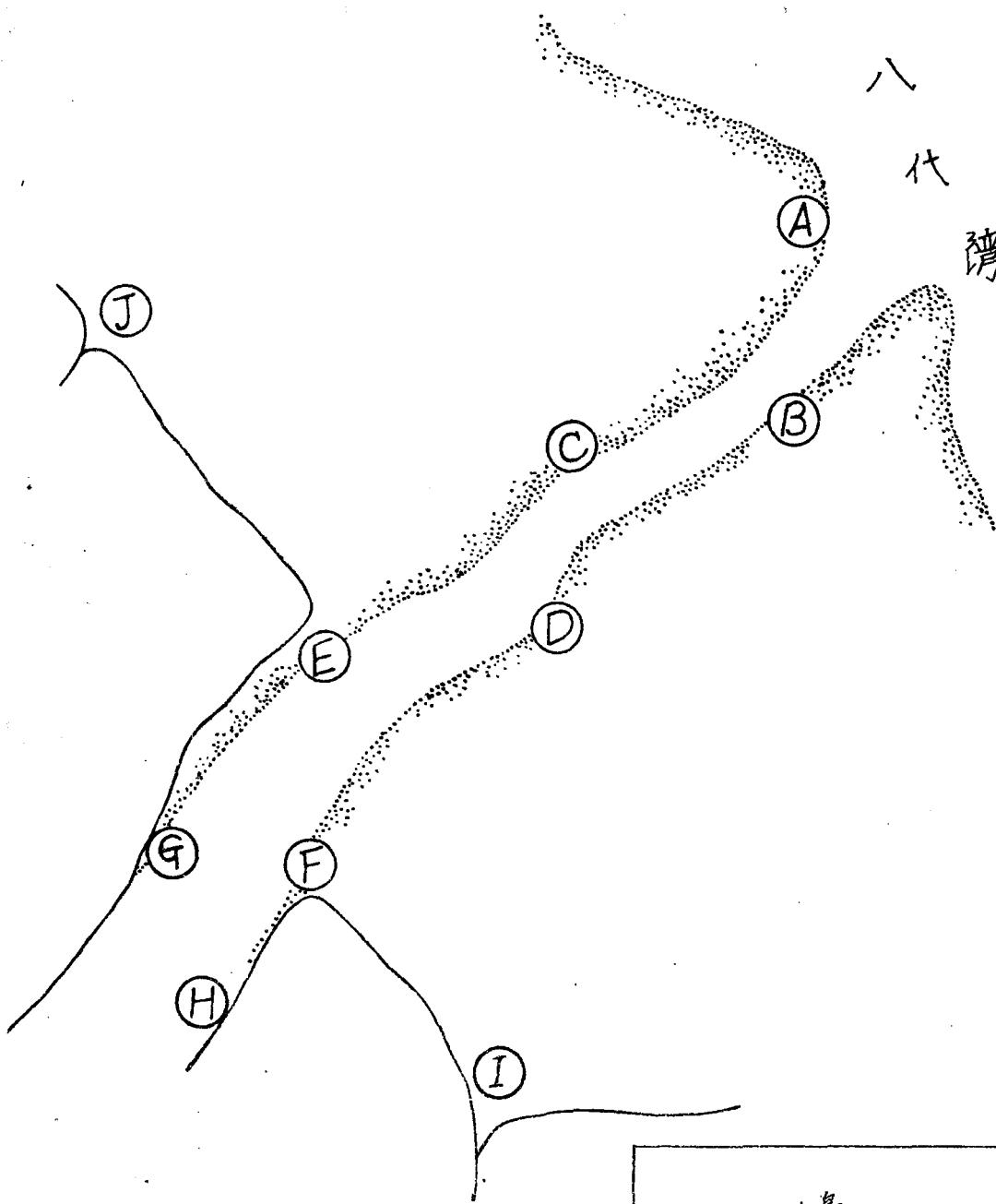
成績 要するに荒崎地先は海苔胞子多量に存在するものと認められ冲合の洪程胞子の着生早く且多く胞子着生はニガマ竹最も良好にて櫻孟宗此れに次ぐ川口奥部の洪は胞子着生遅れ附着數少く尙アヲサ、アヲノリ等害藻の着生多し成長度はB・C・D・Eの部最も良好にして又濾上後の製品價値も他部に優るF・G・Hは種付場所として不良なる結果を示せるも成育場所としては適所と認むI・Jは淡水の流出多く胞子附着なし。

以上に述べたる如く胞子の着生は非常の好成績なりしも一、二月の成長時季に當り水温氣温共に著しく上昇し爲めに成長充分ならざるに腐敗又は流出するもの多く良質の海苔を得ざりしは遺憾とする所なり。

八

代

灣



海蘿増殖試験

趣旨 本縣に多産する海蘿の增收と品質の向上を圖るには直接方法として肥料撒布は効果あるものと思考し前々年度に引續き薩摩郡上甑村平良に於て全地漁業組合に委託し試験せり。

経過及成績 試験區は平良漁業組合地内の辨慶の金ヶ瀬及全儀瀬、下ノ岬の黒瀬の三ヶ所を選定し區域は地形成長度等成育條件殆ど相似たる附着面三十坪を選定して二等分し施肥區無施肥區となし收獲時に之れを對照せり。

施肥方法としては海水一升に智利硝石八匁の割合に溶解し此の溶液を干潮時に際し坪當り一升宛を噴霧器にて散布せり之が成績を表示せば左の如し

四月六日現在

六月二日現在

		試験開始直前		無施肥區		施肥區	
		全平均	長均	全平均	長均	全平均	長均
辨慶	金ヶ瀬	八	寸分	細柔	柔	一寸五分	二寸
下ノ岬	黒ノ瀬	七	分	細柔	柔	一寸五分	二寸
				普通柔	普通柔	二十回	二十回
				硬	硬	二寸	二寸
				三十回	三十回	太ク丸味ヲ帶	太ク丸味ヲ帶
				柔	柔	太ク丸味ヲ帶	柔

こぶし移植繁殖試験

趣旨 従來本縣下に於けるナカラメは濫獲の結果漸次減少し之が防止の方法を講ぜられつゝあるも志布志町夏井地先の如き今や全く棲息せざるの狀態となれり。

茲に於て本場は之が善後策を講ずると共に肉質を改良せんがため志布志町夏井地先水面を選び熊毛郡馬毛島に多産するトコブシを移植し向ふ三ヶ年間を通し成長度蓄積肉質の改良に付試験せむとす。

経過及成績

移植場所は夏井地先タグリ崎附近を選定し該沿岸は岩礁の起伏に富みホンダワラの類繁茂し水深三尋より十尋、透明度は七、八尋にしてトコブシ棲息地として最適なりと認めたり。

七月十日夕刻馬毛島にてトコブシ六十貫を試験船照洋丸活魚槽に活込み志布志町夏井に向け回航せり翌朝未明志布志町夏井着直ちに移植放流に着手せんとせしに風雨激しく作業出来ず午後二時雨小止となりたるを以て放流を開始せるも尚風波荒く投入のみにては流失の恐あるを以て潜水夫二人を使用し個々海中の岩石に附着せしめたり尙該作業着手に當り豫め大小を區別し、タグリ崎を界とし大型のもの（一寸五分以下五寸迄）二十貫東側に小型のもの（二寸五分以下一寸七分迄）二十八貫を西側の試験區に移植放流せり。

調査部

海 洋 觀 測

趣旨 本調査は海の性状を究明し魚族の移動迴游産卵等の研究資料に供せんとするものなり。

経過及成績 従來施行の如く次の三部に分ち觀測せり。

一、開聞岬屋久島間
(横断觀測)

二、屋久島奄美大島間
(横断觀測)

三、鹿兒島灣内定點

就中鹿兒島灣定點觀測は月三回とし周年施行し他は各縣連絡試験規定に依り年四回を選び二月五月八月十一月を期し觀測せり。

一、開聞岬屋久島間横断觀測

本觀測は開聞岬より屋久島一湊に向け十浬毎にA・B・C・Dの四點を設け各點共表間二十五米、五十米、百米、百五十米、に至る各層の水温比重を測定せり、尙其他透明度流向流速氣象等觀測し参考に供せり。

(二) 二月中

水温 例年に比し一般に高溫にして間間岬を去る十八浬の地點以南は水深百米迄總て二十度以上の高溫を示しC點の二十五米下水温の二十度九分を最高とす最低水温はA點百五十米下の十六度九分なり。

比重 屋久島寄り一般に高比重にして二六、〇〇等比重線はC點北方三浬の表面地點より迂曲しつゝD點百米下に至る尙B點百米下に円をなし周圍の低比重に圍繞せられ特種状態にて存在す最高比重は二六、一六にしてD點の百米下に存在し最低はC點五十米下の二五、〇二なり。

(二) 五月 中

水温 二月中表層に表はれし二十度等温線は五十米下に姿を没し二十一度線に替はり百五十米層に表はれし十八度線は百米層迄押上げられ百五十米層は十七度線現はれ本月に入り極端に上層下層の温度差大となれり最高D點表層の二十二度六分最低A點百五十米下の十六度五分とす。

比重 本月に入り一月中に比し比重稍下り二六、〇〇の等比重線は其の姿を見せず上層に二五、八〇線匍匐し百米層附近に二十五度八五線横たはる。

(八月中都合に依り観測せず)

(三) 十一月中

水温 二十二度線はB點北方四浬點表層よりB點百米下層に向け垂直的に沈降し之れより百米層下部を屋久島に向け匍匐す。

一般に屋久島寄り高溫にて最高温度はD點上層に位し二十二度八分を示し最低二十度五分にてA點百五十米下にあり。

二、屋久島奄美大島間

本観測は屋久島永田燈臺より奄美大島笠利崎に至る線にて永田燈臺より十浬母にE・F・G・H・I・J・K・L・M・N・Oの十一點を定め各點共表面二十五米、百米、百五十米の各層水温比重を測定せり尙此の他透明度流向流速氣象等観測し参考に供せり。

(二) 二月 中

水温

二十一度等温線は屋久島寄りF及G點を包み水深百七、八米を限度とし囊状を呈し存在す此の他T・K點間L・M點間に垂直的分布を見る屋久島奄美大島間の中央より稍北方に位する水域は底潮の現出と見る可く百五十米下より現はれし二十度等温線は左右の二十一度以上の高溫水帶に狹まれつゝ1點直下十米附近迄浮上す、十九度線はE點七十五米下に現はれ之より南方D點に至り百五十米下に没しH點北方より

再び擡頭出現し I・H 點間に於て百二十米迄浮上し漸次沈降して I・J 點間にて全く百五十米下に潜入し大島に至るも現はれず大島附近比較的水温低く二十度線あるのみ最高水温は K 點表面の二十一度七分にして最低 E 點百五十米下の十八度七分なり。

比重 一般に二六、〇〇以上を示し屋久島寄り約〇、二低下し二五、八〇附近を示す其他 G 點 M 點の百米層 K 點の五十米層の三ヶ所には附近比重に被はれたる二五、八〇以下の特種比重存在せり。

(二) 五月 中

水温 二月中より約三度の上昇を示し二月中現はれし二十一度線は大島寄り下層に僅かに見らるゝのみにして他の横断面上百五十米水深内には全く其の姿を見せず。

二十四度等温線は E 點七十五米層より現はれ南方に伸び G 點に至り百米層迄沈降し漸次浮昇して I 點ニ津南方にて表面に浮出す其他 K・L・M 點附近にて五十米層を底部とし表面より袋状をなし垂下す。

二十三度線は E 點百米層より南下し該層を上下して L 點百米下に至り之れより漸次擡頭して大島北方 O 點にて表層を浮上す二十二度線は E 點に於て百五十米下に始まり G 點北方にて百五十米下に潜入し K 點北方にて再び百五十米層以上に現はれ漸く上層に浮昇し O 點に於て五十米下に在り。

最高水温は屋久島寄りの F 點表面及び五十米下に存在して二十五度を示し最低は大島北方 O 點百五十米下の十九度とす。

比重 本月に入り非常に不規則なる分布を示し之が等比重線は互に相接せず獨立して各所に散在す、二五、八〇等比重線其の大部分を占め二六、〇〇線は O 點下中層及 E 點 J 點附近の百米層以下に小部分を占め存在するのみ。

最高比重は N 點直下五十米の二六、一四にして最低 J 點百五十米下の二五、四一なり。

(三) 八月 中

水温 一般に五月中より四度の上昇にて表層は全部二十八度以上の高溫水にて被はれ中層は全般に涉り二十五度前後を示す。

今月に入り屋久島寄り極度に水温低下し E・G 點の如きは二十度等温線が百米層迄浮上せり、最高溫度は L 點表面の二十九度五分最低 F 點百五十米下の十八度にして其の差實に十一度五分となれり。

比重 分布狀態、本年四回の觀測を通じ最も平常に復し二五、〇〇等比重線は E 點直下三十五米層より上下曲折して南方に伸び H・I 點間にて表面に露出す二六、〇〇線は F 點百五十米より出現し垂直的に浮昇して全點百米層に至り南下し始め H 點百米層迄百米層を匍匐し以後進

むに従ひ浮昇しJ 点にて二十五米層近く沈降し再び急激に上昇しM 点北方六十米層附近に至り此處にて曲折し北方に向ひて上昇L 点南方二十
五米層に至り又もや南方に逆行して稍沈下し始めO 点三十五米水深層附近に至る此の他K 点百米層下に二六、OO の等比重線の盛り上りを見
る。

(四) 十一月中

水温 表層水温は八月に比し約四度の低下を示すも上層下層の温度差割合に少く底潮の擾乱せるを観ふべき個所無し二十四度等温線はF 点
北方表面より下層に彎曲して南下し袋状を書きL 点にて再び表面に露出す之れが最深部は百二十五米に達しH 点附近直下にあり此の他二十二
度線は屋久島寄り下層とM 点百五十米層附近に僅かに存在するのみ最高F 点表面及二十五米下の二十四度三分最低E 点百五十米下の十九度な
り。

比重 鹽分非常に甘くF 点表面G 点百五十米層の一地点及L・M 点下二十五米層附近に一塊をなす二六、OO 前後の比重を除く外各層共二五、
五〇前後の低比重を示す。

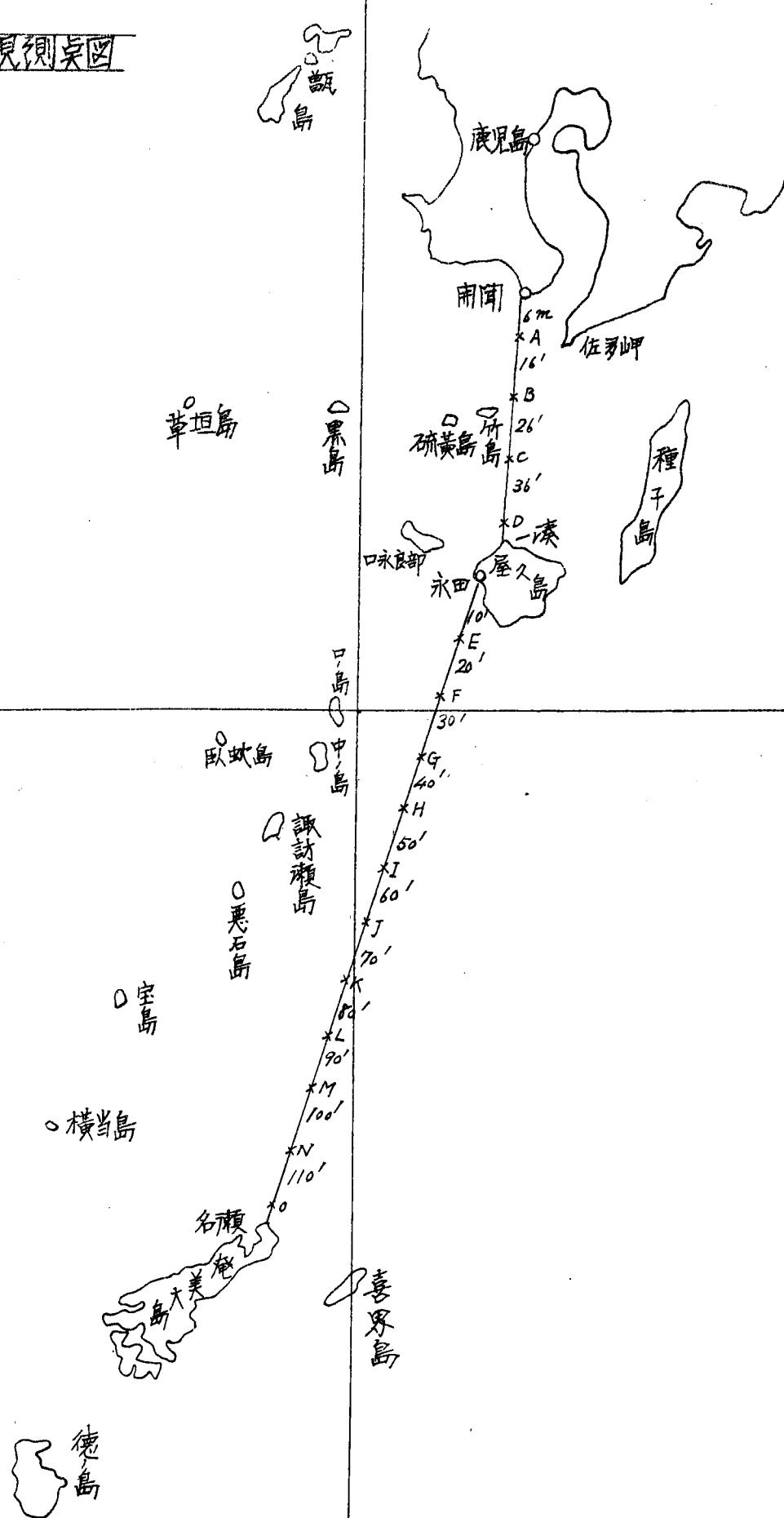
最高L 点二十五米下の二六、O 八最低N 点百五十米下の二四、八七なり。

月 日	時 分	場 所	氣 溫 C 氣 壓 mm	水 溫 及 比 重					透 明 度 (米)	流 向	風 向 力	雲 量	天 气
				表 面	25m	50m	100m	150m					
2,26	12,25 PM	A	12.0 764	19.4 25.83	19.8 25.96	19.3 25.76	18.1 25.83	16.9 25.68	16	E	N 1	10	C
ク	10,50 AM	B	12.0 764	20.3 25.71	20.7 25.90	20.7 25.63	20.6 25.63	18.3 25.88	19	E	W 1	10	C
ク	9,25 AM	C	10.9 764	20.4 26.03	20.9 25.62	20.8 25.02	20.3 25.63	17.8 25.91	17	E	SW 1	10	C
ク	7,45 AM	D	17.0 764	20.5 25.61	20.4 26.13	20.4 25.71	19.9 25.16	17.9 25.63	14	E	SSW 1	10	C
ク	4,34 AM	E	12.0 25.82	20.7 25.74	20.2 25.84	20.5 25.73	18.9 25.94	18.7 25.94					
ク	1,30 AM	N	12.5 25.70	21.2 26.16	20.5 25.68	21.2 26.14	21.2 25.66				N 1	10	C
ク	12,50 AM	G	11.2 26.08	21.1 25.83	21.1 26.13	20.3 25.72	20.3 25.94						
2,25	10,55 PM	H	12.3 25.83	20.8 26.03	20.7 25.91	19.5 26.13	19.2 25.96	18.7 25.96			N 1	10	C
ク	9,10 PM	I		20.5 26.21	19.5 25.92	19.6 26.10	19.5 26.25	18.5 26.40			N 1	10	C
ク	7,20 PM	J		21.1 24.82	20.2 26.23	19.7 25.83	20.3 26.33	19.5 26.24			N 2	10	C
ク	5,30 PM	K	12.5 165.5	21.7 25.91	21.6 25.96	21.6 25.52	21.4 25.92	21.2 25.64	16	NE	N 2	10	C
ク	3,40 PM	L		21.4 766	21.4 25.97	21.4 25.89	21.5 25.96	21.1 26.11	15		N 2	10	C
ク	2,00 PM	M	12.0 765	20.5 25.87	20.5 26.61	20.8 26.17	20.7 25.66	21.0 25.92	17	NE	N 2	10	C
ク	12,10 PM	N	11.0 765	21.1 25.98	21.5 26.08	21.4 26.27	21.3 26.11	20.8 25.71	18	NNE	N 2	7	C
5,17	0,20 PM	A	19.4 759	21.0 25.88	21.0 25.88	21.2 26.01	17.0 25.81	16.5 —	18	ESE	W 3	10	C
ク	1,40 PM	B	19.1 758	21.1 25.51	20.9 25.71	19.3 25.88	18.0 25.81	17.0 25.91	19	E	WNW 3	7	C
ク	3,10 PM	C	20.0 758	21.7 25.71	21.5 25.71	20.2 25.94	17.8 25.91	16.7 25.81	18	E	WNW 3	10	C
ク	4,40 PM	D	25.1 758	22.6 25.81	22.1 25.81	21.6 25.88	18.8 25.81	18.3 25.91	21	E	NW 2	10	C
ク	7,45 PM	E	21.4 759	24.7 25.88	24.9 25.88	24.7 25.71	23.2 26.01	21.0 26.02		NNE	N 3	10	C
ク	9,15 PM	F	21.4 759	25.0 25.67	24.8 25.61	25.0 25.78	22.6 25.78	21.5 25.82		NNE	N 3	10	C
ク	11,15 PM	G	20.5 —	24.6 25.88	24.6 25.78	24.6 25.88	24.4 25.88	22.2 26.03		NNE	N 2	10	C
5,18	0,40 AM	H	20.5 —	24.2 25.88	24.1 25.88	24.0 25.83	23.6 25.78	22.1 25.78		NNE	N 2	10	C
ク	2,30 AM	I	20.6 759	24.1 25.88	24.8 25.88	24.0 25.88	22.0 26.04	21.4 25.41		NNE	N 2	10	C
ク	4,10 AM	J	21.8 759	23.6 25.92	23.8 25.83	23.9 25.72	23.3 26.07	22.6 26.07		NNE	N 2	10	C
ク	5,40 AM	K	21.5 —	23.9 25.98	24.1 25.79	24.0 25.83	22.5 25.91	21.7 25.88	26	NNE	N 2	10	C
ク	7,10 AM	L	22.7 759	24.1 25.94	24.2 25.84	24.1 25.77	23.1 25.88	21.7 25.97	33	NNE	N 3	10	C
ク	9,05 AM	M	22.6 760	23.4 25.87	23.3 25.77	23.1 25.94	22.6 25.94	20.8 25.84	30	NNE	N 2	10	C
ク	10,40 AM	N	23.5 760.5	23.0 25.87	23.0 25.98	21.7 26.14	20.7 25.94	20.7 25.87	26	NNE	N 2	9	C
ク	2,00 PM	O	22.8 760	23.0 25.94	22.8 25.79	22.1 25.59	20.1 26.01	19.0 25.91	27	NNE	N 2	10	C

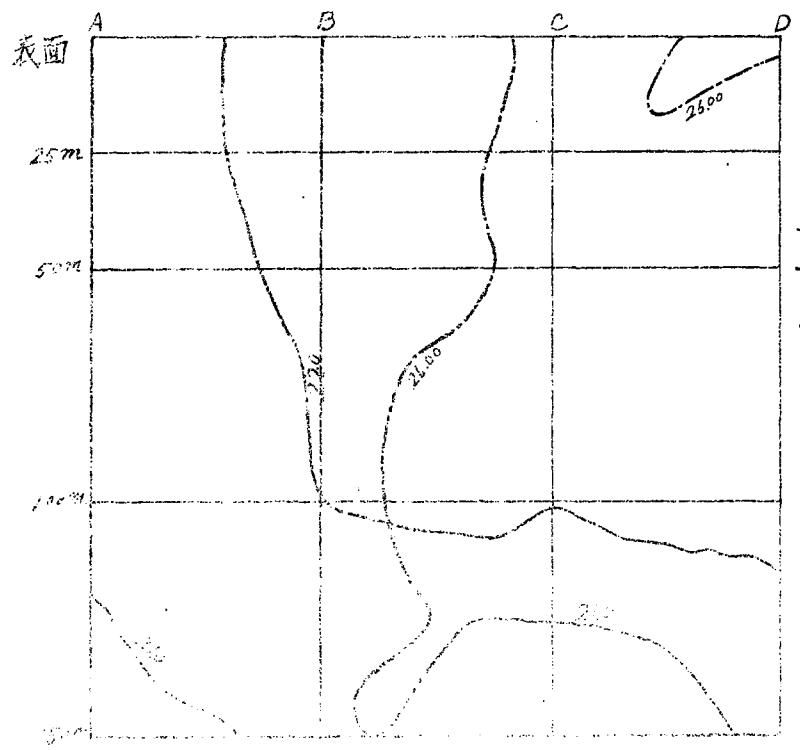
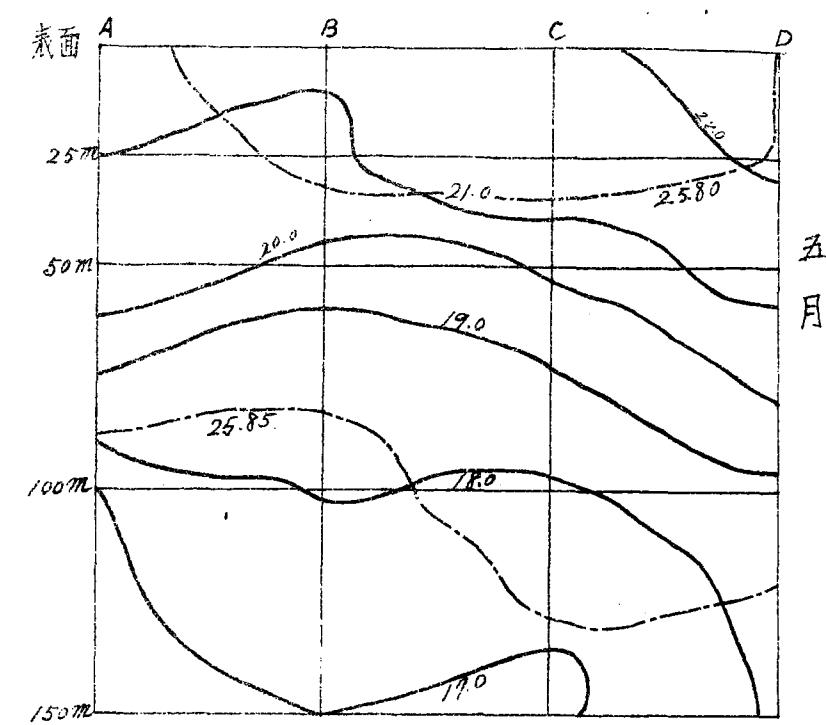
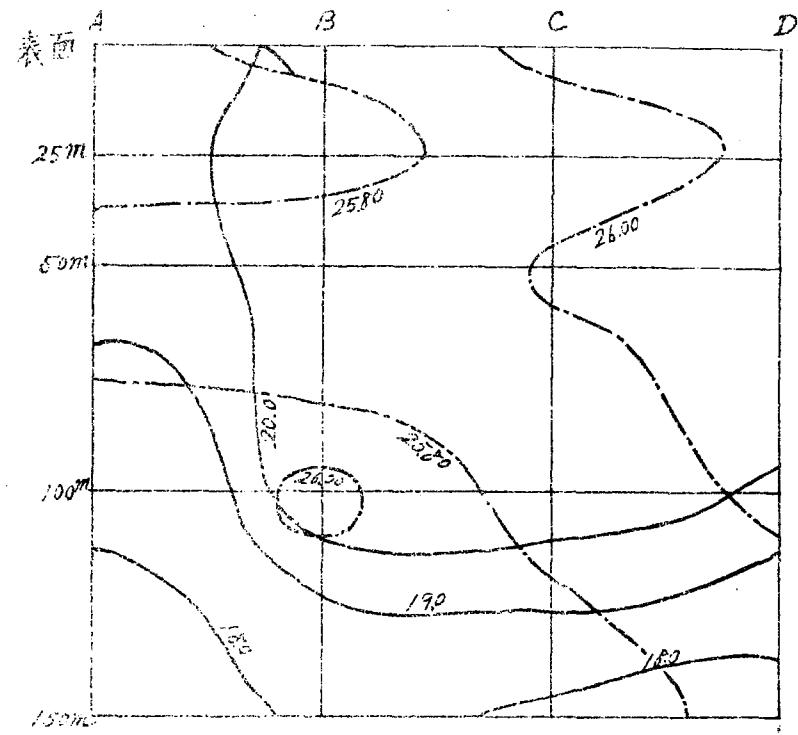
月日	時分	場所	氣溫 氣壓	水溫及比重					透明度 (m)	流向	風向力	雲量	天氣
				表面	25m	50m	100m	150m					
8, 1	6,25 PM	E	29,5 764	28,4 24,15	26,4 24,84	25,0 25,19	21,0 25,49	19,2 25,56	35	SE	SW 1	4	B
ク	7,50 PM	F	26,3 —	28,0 24,19	27,5 24,69	25,1 24,89	21,0 26,01	18,0 26,11	—	E 1	4	B	
ク	9,20 PM	G	27,0 —	28,0 24,18	27,3 25°20	24,2 25,63	20,4 25,98	19,4 26,05	—	E 2	—	B	
ク	10,50 PM	H	27,0 24,80	28,5 24,70	27,8 25,44	27,0 24,96	23,0 26,22	20,5 26,22	—	E 2	5	B	
ク	0,20 AM	I	27,1 —	28,6 25,24	28,2 25,24	26,1 25,85	24,5 26,16	20,5 26,25	—	E 1	—	B	
8, 2	5,25 PM	J	28,9 763	28,6 25,32	28,5 26,01	27,2 26,09	24,1 26,29	22,5 26,33	28	SSE	SSE 2	3	B
ク	6,35 PM	K	29,1 —	29,2 25,43	28,9 25,50	27,5 25,92	25,2 26,26	24,5 25,29	28	—	SSE 2	3	B
ク	8,10 PM	L	28,0 753	25,5 25,34	29,3 25,96	28,2 25,65	25,2 26,02	24,0 26,42	—	SSE 2	3	B	
ク	9,30 PM	M	25,0 753	29,2 25,79	27,5 26,19	26,5 26,02	24,8 25,69	23,5 26,06	—	SSE 2	3	B	
ク	10,45 PM	N	27,5 753	29,0 25,34	28,5 25,92	27,3 26,07	25,8 26,22	—	E	SSE 2	3	B	
ク	—	O	27,5 753	27,5 25,89	28,2 25,92	27,0 26,08	25,6 26,25	24,8 26,28	—	E	SSE 3	3	B
12, 1	3,15 PM	A	19,7 763,5	21,6 25,96	21,6 25,85	21,6 25,74	21,0 25,65	20,5 25,81	17	SE	NNW 3	6	B
ク	4,53 PM	B	19,8 764	22,2 25,75	22,2 25,73	22,1 25,83	22,0 25,91	21,3 25,99	16	ENE	NNW 3	7	B
ク	6,33 PM	C	18,8 764,5	22,5 26,04	22,5 26,05	22,5 26,05	22,1 26,21	20,1 26,09	—	NNW 3	5	B	
ク	8,12 PM	D	18,8 765	22,8 25,94	22,8 26,16	22,7 26,04	22,3 26,03	21,3 25,91	—	NNW 3	7	B	
12, 2	6,30 AM	E	— 762	22,7 25,28	22,5 25,78	22,5 25,68	21,5 25,28	19,0 25,55	—	E 2	2	B	
ク	8,10 AM	F	— 762	24,3 26,08	24,8 25,51	24,1 25,93	23,4 25,48	22,8 25,58	26	—	E 4	4	B
ク	10,10 AM	G	— 762	24,0 25,38	24,0 25,58	23,8 25,71	23,8 25,41	23,0 26,03	24	—	E 4	4	B
ク	11,50 AM	H	— 762	24,5 25,48	24,5 25,51	24,0 25,51	24,2 25,51	23,8 25,61	24	—	E 4	4	B
ク	1,50 PM	I	— 761	23,8 25,71	24,0 25,88	24,0 25,45	24,0 24,55	24,2 25,66	22	—	E 4	9	C
ク	3,40 PM	J	— 761	23,7 25,42	24,0 25,45	24,0 25,53	24,0 25,48	24,0 25,38	23	—	E 4	—	R
ク	5,30 PM	K	— 761	24,0 25,81	24,0 25,63	24,0 25,96	24,0 25,51	23,6 25,41	—	E 4	—	—	R
ク	7,10 PM	L	— 760	24,0 25,43	24,0 26,08	24,0 25,38	23,8 25,68	23,5 25,68	—	E 4	—	—	R
ク	8,50 PM	M	— 760	23,8 25,47	23,8 25,58	23,8 25,58	23,4 25,63	21,8 26,61	—	E 4	—	—	R
ク	10,30 PM	N	— 759	23,8 25,81	23,8 25,61	23,8 25,71	23,6 25,51	23,0 24,87	—	E 4	—	—	R
12, 3	0,30 AM	O	— 758	23,6 25,45	23,6 25,85	23,5 25,41	23,2 25,33	22,0 25,71	—	E 4	—	—	

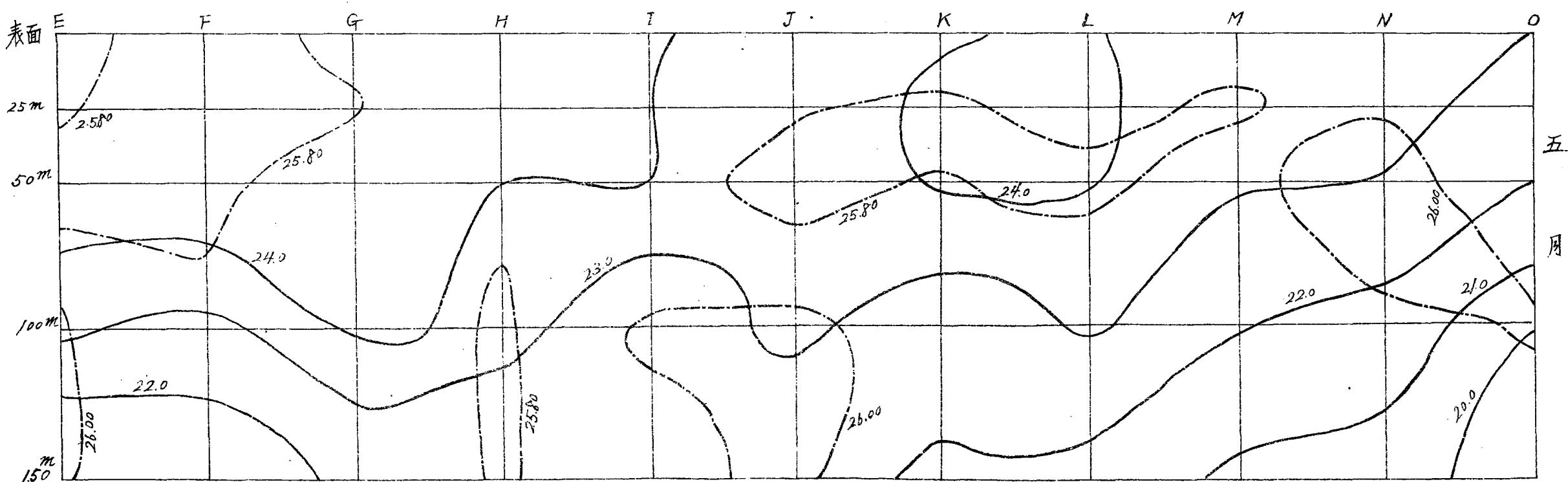
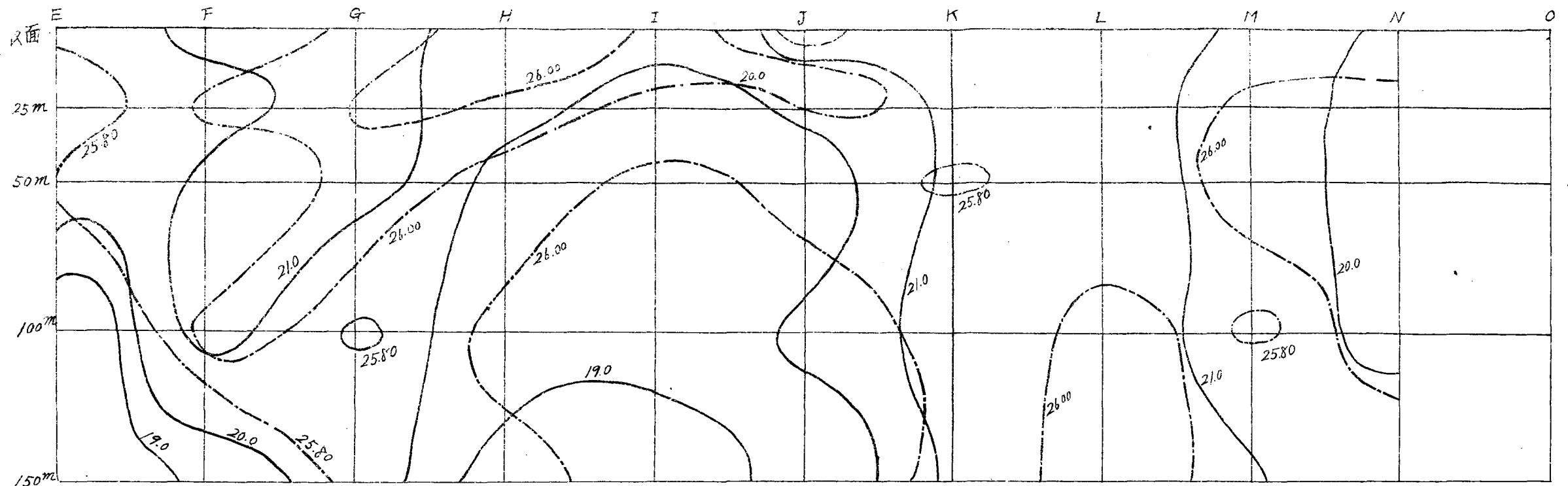
橫
斷
觀
測
圖

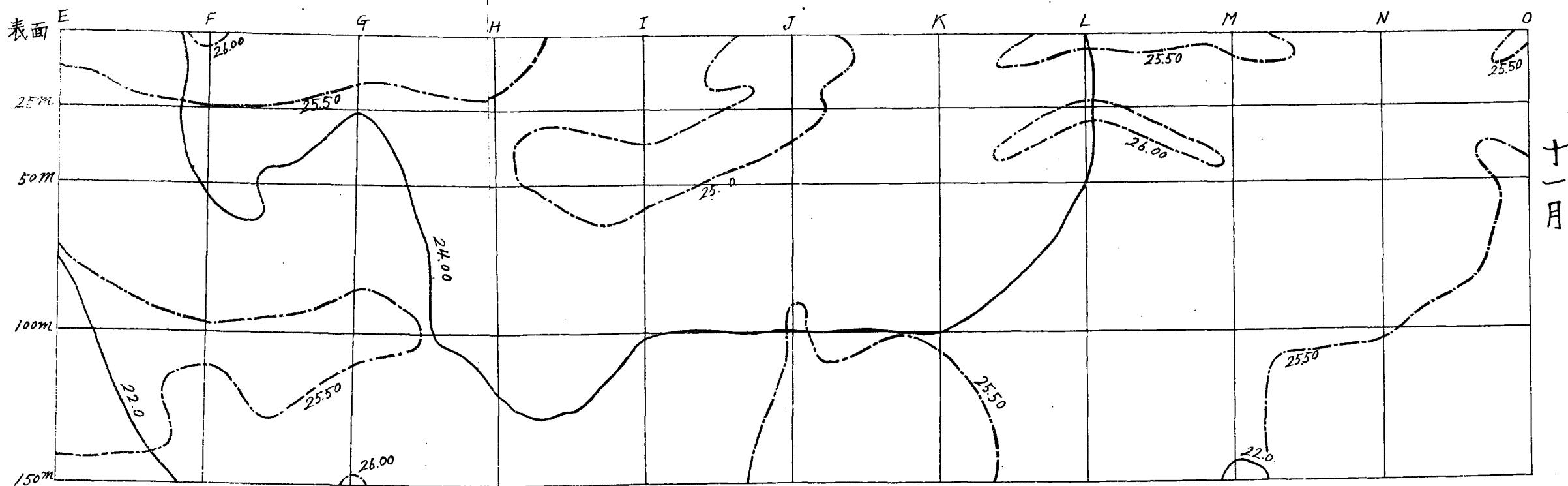
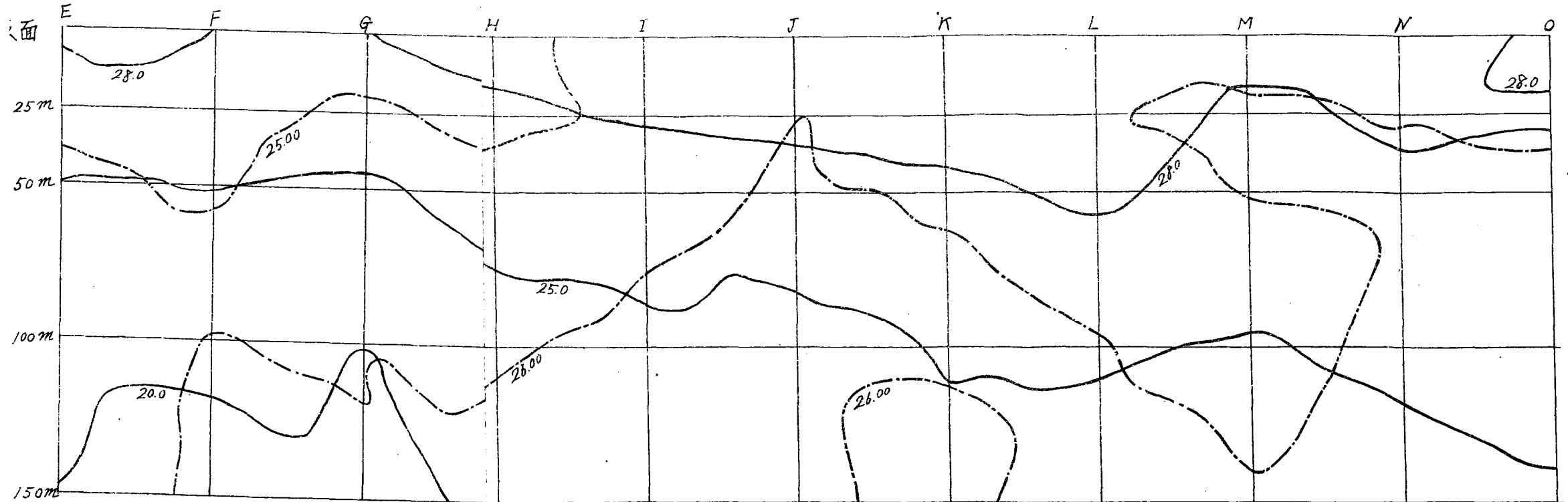
横断観測実図



橫
斷
觀
測
表







三、鹿兒島灣內定點觀測

鹿兒島港外沖小島沖に定點を設け表面、二十五米、五十米、七十五米、百米の各層水温比重を測定せり、尙其都度水色、透明度流向流速氣象等觀測し之れが参考に供せり。

一、水溫

表層に於ては四月より八月に至る間は平年前年より低温を示し八月以降年末迄平年前年より高温を示せり。

最高溫度は本年九月平年八月最低は本年三月平年二月に現はれ水温昇降は平年より丁度一ヶ月後れたるを示す五十米下層水温は其昇降に於て表層とほぼ同一狀態を示すも平年と比較する時は七、八月の候に於ける表層溫度は平年より低位に位するも五十米層に於ては反つて上位に位するを知るべし。

最高溫度	六 年 表 面	五 十 米 層
九月 中度	八月 中年	六月 度
二八、九度	二八、〇度	九月 中
三月 中	二月 中	二四、七度
一六、五度	一五、八度	二三、八度
二月 中	三月 中	二月 中
一六、四度	一五、六度	一五、六度

二、比重

周年に亘り平年前年より極度の低下を示し殊に七月中表層の如きは二二、〇六の低比重にて前年度との差二、四九平年度との差

一、八四を示す。

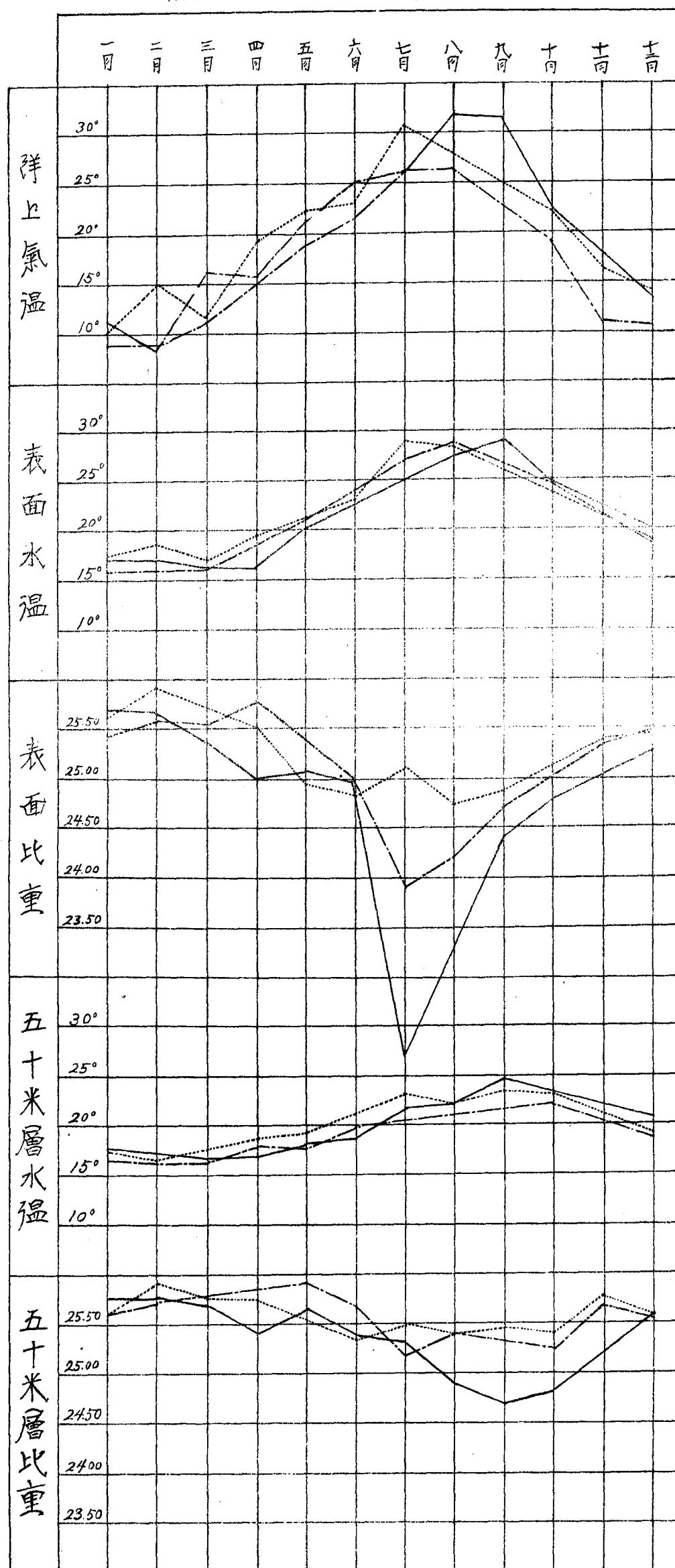
五十米下層に於ても同様低下を示し最低比重は九月中にあり表面最低七月より後ること二ヶ月なり。

最高比重	六 年 表 面	五 十 米 層
一月 中度	四月 年	六月 度
二五、六 七	二五、七 六	二五、七 六
七月 中	九月 中	五月 中
二三、九 〇	二四、六 中	二五、二 六

定點觀測表

月 日	時 分	氣 氣 溫 壓	水 溫 及 比 重 15.℃							透明度	潮 流 向	雲 量	風 風 向 力	天 氣
			表面	25m	50m	75m	100m	平均						
1, 11 10, 45	AM 10, 45	3 25, 98	18, 4 25, 81	18, 4 25, 82	17, 4 25, 85	17, 4 26, 05	18, 0 25, 90	13	上 N	8	NNW 1	C		
15 1, 15	AM 1, 15	13 25, 68	17, 3 25, 91	17, 7 25, 99	18, 0 25, 79	17, 5 25, 05	17, 0 25, 68	10	上 N	7	NE 1	B		
29 10, 30	AM 10, 30	17, 5 25, 36	15, 5 25, 47	16, 0 25, 46	16, 0 25, 36	16, 5 25, 46	17, 5 25, 42	16	N		NE 3	C		
2, 18 11, 30	AM 11, 30	7, 5 763, 1	17, 5 25, 50	17, 5 25, 50	17, 0 25, 62	16, 5 25, 75	15, 0 25, 66	16, 8 25, 60	18	SE	4	NW 5	B	
8 10, 50	AM 10, 50	3, 5 766	16, 1 25, 78	15, 8 25, 76	16, 2 25, 83	14, 4 25, 98	15, 6 26, 01	15, 6 25, 86	12	上 N	10	NW 2	B	
3, 5 11, 00	AM 11, 00	13, 2 25, 35	16, 3 25, 77	16, 3 25, 79	16, 2 25, 77	16, 5 25, 79	16, 5 25, 79	16, 4 25, 69	16	N	10	S 5	C	
14 11, 00	AM 11, 00	17, 5 25, 49	16, 8 25, 43	16, 5 25, 53	16, 5 25, 53	16, 5 25, 58	16, 3 25, 55	16, 5 25, 60	96	N	3	0	C	
4, 2 11, 05	AM 11, 05	11, 8 764	16, 5 25, 93	16, 7 26, 00	16, 4 26, 03	16, 4 26, 03	16, 2 25, 86	16, 4 25, 97	8	下 S	9	N 2	BC	
15 10, 00	AM 10, 00	17, 1 25, 27	16, 2 25, 57	16, 7 25, 67	16, 5 25, 67	16, 5 25, 57	16, 2 25, 57	16, 4 25, 57	8	N	10	NW 2	C	
25 11, 00	AM 11, 00	18, 0 23, 83	17, 0 24, 23	17, 0 24, 73	16, 7 25, 05	16, 5 24, 84	16, 5 24, 54	16, 7 24, 54	8	N	5	NW 3	R	
5, 1 11, 00	AM 11, 00	19, 0 759	19, 0 25, 15	17, 8 25, 56	17, 4 25, 66	16, 3 25, 72	16, 5 25, 88	17, 4 25, 59	7	N	7	0	B	
14 11, 00	AM 11, 00	21, 2 763	20, 3 24, 27	18, 2 25, 35	17, 2 25, 75	17, 0 25, 43	16, 5 25, 60	17, 8 25, 30	9	S	1	NW 1	BC	
28 11, 30	AM 11, 30	22, 5 758	20, 8 25, 82	20, 0 25, 82	18, 5 25, 45	16, 7 25, 45	16, 3 25, 25	18, 5 25, 56	22	N	8	S 1	B	
6, 1 10, 10	AM 10, 10	22, 6 25, 31	20, 5 25, 63	19, 5 25, 92	18, 5 25, 95	17, 9 25, 95	16, 6 26, 02	18, 5 25, 77	21	下 S	6	0	BC	
14 11, 00	AM 11, 00	24, 0 25, 00	22, 4 25, 20	20, 7 25, 20	18, 4 25, 20	18, 3 25, 40	17, 5 25, 50	19, 5 25, 26	22	S	8	0	B	
26 11, 00	AM 11, 00	29, 0 24, 44	24, 5 25, 27	21, 0 24, 67	17, 6 24, 64	16, 0 24, 67	15, 0 24, 67	19, 1 24, 74	16, 5	S	9	N 2	BC	
7, 2 10, 30	AM 10, 30	28, 3 24, 34	25, 0 25, 04	25, 1 25, 04	22, 3 25, 37	18, 0 25, 87	17, 4 25, 14	21, 6 25, 14	14, 0	N	9	S 3	C	
16 11, 00	AM 11, 00	26, 0 21, 19	24, 8 24, 76	24, 3 25, 43	19, 8 25, 53	17, 5 25, 53	16, 0 25, 53	20, 4 24, 49	11, 0	NW	10	W 3	BC	
24 11, 00	AM 11, 00	25, 0 20, 66	25, 0 24, 06	24, 6 25, 14	22, 1 25, 08	20, 0 25, 04	18, 7 24, 00	22, 1 24, 00	10, 0	NW	9	NW 2	G	
8, 1 11, 00	AM 11, 00	30, 8 21, 85	26, 9 24, 89	23, 6 24, 86	23, 6 24, 42	20, 6 24, 26	17, 5 24, 06	22, 6 17, 0	17, 0	W	7	0	C	
14 10, 00	AM 10, 00	33, 0 24, 71	29, 3 25, 43	25, 1 24, 78	20, 6 24, 57	19, 6 23, 22	22, 5 24, 54	23, 4 24, 54	8	N	2	S 1	B	
9, 1 10, 00	AM 10, 00	33, 0 24, 91	29, 5 25, 72	26, 8 24, 66	24, 6 24, 74	19, 5 24, 02	18, 5 24, 81	23, 8 24, 81	15	W	6	0	B	
17 10, 0	AM 10, 0	30, 7 23, 86	28, 3 25, 89	25, 9 24, 66	24, 7 24, 88	19, 5 23, 89	18, 5 24, 64	23, 4 24, 64	17	N	1	N 2	B	
10, 1 11, 30	AM 11, 30	22, 7 761	24, 6 24, 76	25, 2 25, 29	23, 5 24, 50	19, 4 25, 73	22, 4 25, 28	23, 0 25, 10	15	E	9	W 1	B	
15 11, 30	AM 11, 30	22, 9 24, 80	23, 6 24, 87	23, 9 25, 04	23, 5 25, 02	21, 0 25, 22	22, 0 24, 99	23, 2 24, 99	13	NE	10	0	R	
12, 1 9, 00	AM 9, 00	15, 7 25, 20	20, 5 25, 30	20, 6 25, 56	20, 9 25, 66	20, 9 25, 53	20, 3 25, 45	20, 6 25, 45	11	上 N NNW	4	WNW 1	B	
16 10, 30	AM 10, 30	13, 0 —	19, 5 —	19, 3 —	19, 5 —	18, 6 —	— —	19, 2 —	6	上 N	6	0	B	

氣溫水溫比重各月變化



昭和八年三月廿五日印刷
昭和八年三月三十日發行

鹿兒島縣水產試驗場

鹿兒島市泉町四

印刷人 馬場彥太郎

鹿兒島市泉町四

印刷所 合名會社馬場印刷所

電話八四〇番

